

n

n

e

gg

n

e

s

u

t

i

r

u

o
k

D

作
荒井
啓利

Dokuritusengenn

作品概要

起こりゆく分断について、独立と言いかえたいと思う。どうしたって、起こりゆくのなら。

あまりに係留点が増えてしまった現在。外の世界は丸見えのはずなのに、どうしてこんなにもいきぐるしいのだろうか。昔の人たちの、このいきぐるしさと闘ってきた歴史が、まさにこの丸見えな世界をかたどってきたはずではないの？　：おかしい。今もスマホを触りながら書いている。つながりがオーバーフローしているな。つながらないと、自分を固定化できないみたい。

丸見えと言ったけれど、実際のところ、例えばまだこの世界には未発見の生物種が90%もいるらしい。まだまだ冒険家は絶滅しない気がした。それでも、限界は見えてしまっている。あと90%しかないとも言えてしまう。未知の世界が広がっているのではない、既知の、未知の世界があるってだけ。どうせなら、200%でも5億%でもなくて、「僕らにはわかりません」ってなっちゃったほうがこの絶望、知らなくてもよかったよな。さすがにそこまでアナーキーにはなれない自分。二十数年かけて育んできた価値観に、知らず知らずにがんじがらめ。「認知の歪み」が他人事ではないこと、最近知った。

自分の性自認、について、考える時間がほしくなって
社会情勢が、独りの時間が増やして、けれど、

皮膚の上ではたしかに、誰かとのつながりがまだのこっていて
何かを主張していくにも　　なんだか、まずこのつながりの世界に入ること強要されている気がして
確かに

大好きだった　人について、考える時間もある
もういなくなった、祖父と　　会話したくなる時もある

でも。

この戯曲は、Dokuritusengennと言います。声を大にして言いたかったけど、やっぱそうじゃな気がして、その照れ隠しがローマ字なんだと思うし、あとはこの翻訳のような変換によって、振り落とされる意味と、新たに会おう意味があればいいな。って思ってます。

書くにあたって、ジル・ドゥルーズの知恵には相当お世話になった。千葉雅也氏の『動きすぎてはいけない
ジル・ドゥルーズと生成変化の哲学』を、参考文献として挙げておきたい。

また、そのつながりで、ドゥルーズが援用するアントナン・アルトーの「器官なき身体」の概念と、フランシス・ベーコンの絵画、〈ある磔刑図の足元にいる人物達のための3つの習作〉にはかなり力を貰った。無
論、それ以外の多くの「現代まで残ってくれた」テキストたちにも、最大限の感謝を。

つながり、時間、歴史、言語、翻訳、解剖、人体、性、インターネット、グローバリズム、ステイグマ、相
対性理論、アメリカ独立宣言、大麻、クラブ文化、あとコロナも含めて、いろんなものに引っ張られなが
ら、引き裂かれそうになりながら、最後の景色にたどり着いた。

起こりゆく分断について、独立と言いかえたいと思う。どうしたって、起こりゆくのなら。

- 1、この独立△宣言▽は、各個人それぞれが強制されぬ形で言い放たねばならない。
- 2、この独立△宣言▽は、起こるであろう分断を、独立と言いかえるための作品でなければならない。
- 3、この△宣言▽の結果、ある一定のつながりは断たれ、世界は見通せなくなり、しかしそれと同時に、有限で豊かな可能性が広がると考える。
- 4、この△宣言▽によって、接続と切断の比重を、一度無意味にし、改めて接続と切断を同じウエイトでとらえなおさなければならない。
- 5、「器官なき身体」は、常に目指される理想であって、現実目標としてはならない。
- 6、理想に向かい、しかしそのたびに後戻りする、ユーモアさを忘れてはならない。
- 7、この△宣言▽は、作者母語の日本語で、尚且つ縦書きでなければいけない。それ以外は、「特に規定しないこと」が「重要である」とする。
- 8、引用するテキストは、著作権が切れている原文を、Google翻訳したものを使うこと。あるいは混じりこむ形でパブリックドメインのものを使用すること。
- 9、この戯曲は上演にあたって、つくるもの、みるもの、あるいはそれ以外で携わるもの、すべてにとって強制されぬ形で言い放たれていなければならない。主体性を失っていなければならない。

そしてこの戯曲が、独立△宣言▽が、あなたの世界に一陣の風をふきこむように。

《登場人物》

持つ人

踊っている どこにも行けない 未来とつながろうとしている

ある人

光を観測する 未来人 過去を追いかけている

待ち人

警鐘を繰り返す 過去人 忘れかけられている

正しい人

正そうとする サディスト あいまいを殺す

ゴミ廃棄人

言葉を捨てている ホームレス 殴らない

廃人たち（複数）

踊り狂っている 薬物中毒 待ち伏せている

変質者

探している 異邦人 器官を失いかけている

蝸牛かたつむり

探している 変質者の耳 きこえる

硝子しょうじ

探している 変質者の目 みえる

鷺鼻わしばな

探している 変質者の鼻 かげる

檜葱やぐらねぎ

探している 変質者の四肢 さわれる

せいぎ

探されている 変質者の生殖器 逃がっている

さげび

食べている 亡霊／怪物 さげんでいる

ひかり

てらしている かわらない みられている

空間には 河が流れている。

いくつも外から合流して、どこかへ流れていつている。

それは、時間を表している 縦横無尽に交差し、引き裂き 引き 裂か れ

多くの終わりを上げ 始りを生んでいるはずである。

独り を 生んでいるはずである。

生まれ 翻訳され 読み慣らされ た言葉 たちも ここに集まってきて

それは層のように 刻まれていく 何層も 何層 も

どこかで流れが流れを、上書きするように 渦を巻く。

層を断つ 河 その底 は 薄暗く ほとんどみえぬ。

それは溪谷であり、亀裂であり、

断崖である。

ゴミ廃棄人

遊泳していた 言葉をつかんで 断崖に投げ込んでいた。

∴。

∴。口笛。今日も 大量だなーあーあつと。まったく。溜息。外様の人間様
は、残すことしか考えていねえ。残した後、それを処理しなくちやいけねえ、
のはこっちだったのに。やつらの頭には、相手がいねえ。これっぽっちも欠落
してやがる。そんなんだからいつまで経っても言葉がぼろぼろ、思い出ほろぼ
ろ、散らかしやがるのさ、だからいつまでたっても大舞台に立てない大根
役者なんだろうが、この、大根め！ 投げる。

変質者

あの。

ゴミ廃棄人

：ゴミ廃棄を続けながら：ああ、新人さん？ 駄目だよ、そっちらから入ってきちゃ。まだ連中来てないからいいけど、みつかないよう裏から入らなきゃ。

変質者

、あ、違います。探し物なんですけれど。

ゴミ廃棄人

：漂う：言葉を拾いながら：おおこいつは、大物だあ、えー、読み上げる：「想像力は知識より重要です。知識は限られています。想像力は世界を取り囲んでいます。アルベルト・アインシュタイン」：なんだかこいつは年中よだれを垂らしてそんな奴だなあ。捨てる。

変質者

この辺りで、私の、せいき。みかけませんでした？

ゴミ廃棄人

みかけないねえ、あんたみたいなやつ。ってだからあんた！ 部外者は立ち入り禁止だよ！ もう少し外で思考停止してな！

変質者

あ、みたかみてないかだけ、教えていただけませんか？

ゴミ廃棄人

おお、おお、これもでけえ、よっしょつと、！：「男性は一般的に、彼らが真実であることを望んでいることをすぐに信じます。ジュリアスシーザー」、こいつは人をたくさん殺して、人に裏切られて死にそうだなあ、

変質者

みましたかー？ みて、ませんかー？ 私のー、せいきー。

ゴミ廃棄人

聞こえてるよあんたさっきから！ え！？ せいき？？ はあ？？ そんなもんあんた、自分のまわりをよくみてみるこたさ！ その辺、いたるところに落ちてるだろうよ！ まったく、せいき、せいきと、外様の人間は口を開くとすぐそれだ、そんなに体と体のつながりがいいかい。フィジカルなつながりがいいかい！ え！？ もう聞き飽きてんだよこっちはな！ やれ「絶頂に達した神父」だ、やれ「セックスの話を聞けなかった処女」だ、やれ「女性器と肛門に話をさせた騎士」だ！ そんなゴミはもうだいたいぶ前に捨てちまったよ！ いいか、ここにあるのは言葉のゴミとそれを捨てる奴、もしくはどっか欠けちまつてるダニたちだけだよ、このすつとこどっこい！！！！

変質者

あ、あのー。

ゴミ廃棄人

あーあーあー！！！！ これ以上仕事の邪魔すんなってんだ！

変質者

私も、欠けてます。

ゴミ廃棄人

：はあ？ 振り向く。

そこにはせいきだけでなく、身体の輪郭があやふやな存在が認識できた。

う、うわああああああああああああああああ！ 抱えていたゴミをぶちまける。

く、くるなあああああ！

ぶちまけられた 言葉は、断崖に落ちていく。
断崖の奥底から、一瞬 ひかりが上がる。
それから、やまびこのように 声が、聞こえた。

さげび

…くるぞ、くるぞ、coming' coming' à venir' Kommen' adventum'…

深い断崖 溝は、すぐ横から広がって行って

断崖の 奥底で

化け物は、静かに こちらを、みつめている

そいつの涎は したたり 岩をうがち

水溜り 溜池となって 河となって 溪谷となって

ある海へ流れ着く

黄昏れる海辺には、わたしたちの希望の残骸

絶望の残滓 あるいは、単に望みの綜合

きらめきもっていたいも そこでは意味をなさない

意味は 水底に その抜け殻の集合

言葉は、そこで一度からっぽになるんだ

時間を超えられる 言葉たちってのは

その化け物の歯牙にかからなかったもののみ

変質者

…なんですか？ 今の。溪谷の方を覗きみる。みる？

ゴミ廃棄人

あ、あ、ああああんた、人じゃないのか？

変質者

いや、元は人だったんですけどね。…ほら、こんなご時世でしょ？ 引き裂かれちゃって。

ゴミ廃棄人

ひ、引き裂かれたってあんた、なんでまた。

変質者

自己主張する人が、増えましたから、、、あ。
来た方向に引っ張られていく。

ゴミ廃棄人

ちょ、ちょあんた、どこいくんだ！

変質者

引っ張られてます、

ゴミ廃棄人

いやそれはみりゃわかるよ！

変質者

ちょっと、呼ばれてるみたい、

ゴミ廃棄人

よ、呼ばれてる？

変質者

私の、身体たちが、私を、呼んでいる、

変質者 来た方向に消える。

すると、変質者、身体の部位たちに運ばれてくる。

ゴミ廃棄人

慌てて身を隠そうとする

櫓葱

それで？ この辺りにせいぎがいると？

鷲鼻

おいをかぐ。うーむ。あやつの独特なおいは、特にしないぞ。

変質者

ですが、この辺りに落ちているらしいですよ。

硝子

ほんとかよー。これっぼっちもみえねーんだけどー。

櫓葱

じゃあこの辺りで野営かい？

硝子

いやウチ、それマジ無理ってゆーかー。そろそろ屋根付きがいいんだけど。マジ乾くってゆーかー。

蝸牛

し しょうこ、ちゃん、かわいちゃう、の？

硝子

そー。だからさーいーじゃんここで。ここなら屋根あるし。

櫓葱

うーむ。しかし、もしここが誰かの所有地だったらどうするのさ。こちら、責任取れないしー。

鷲鼻

いや待て櫓葱、吾輩も正直、乾燥するのは、嫌だ。

櫓葱

どうしてさ、君はそんなに乾燥に弱くないでしょーに。

驚鼻

いや、結構、、、あそこが詰まりやすく、、、なる、、、

硝子

うっわ、マジきもゲロきもグロきも、ないないないない

驚鼻

な、、、

蝸牛

わ わしばな、さんも、かわいちゃうの、？

驚鼻

いや、、、かわくとういか、、、

硝子

そーゆー蝸牛はー、べつにいいわけ？

蝸牛

わ、わたしは、べつに、、、

変質者

皆さん、そろそろ挨拶してあげてください。

硝子

誰に？

驚鼻

誰に？

櫓葱

誰に？

蝸牛

だれ に？

変質者

あちらの、個性的な服装をされた方です。

廃棄者

う！ み、みるな！ こ、こっちを、ちゅ、注目されるのは、苦手なんだ、

変質者

硝子、あんまりみないであげて

硝子

視界に入るんですけどー。

以後、身体の部位たちは野次を入れたり入れなかったりする。

ゴミ廃棄人

あんたら、、、いったいなんなんだ、、、

変質者

ほら。身体、欠けてるでしょ？ ていうか、ばらばら、あったり、あ、ほら。なかつたりしてるんですよ。

ゴミ廃棄人

：？ あんた、何を言ってるんだ？ 俺とおんなじ言葉、喋ってるか？？

変質者

いやいや、言葉は通じてるじゃないですか。

ゴミ廃棄人

、、、通じてるからと言って、おまえ、意味が通じてなかったら意味がないだ！それはもう通じてないのと同じだ！ ああ、意味が悪い、小虫が肌の上でのたうち回ってるみたいだ。：おい！ あんたら、こんなところにはなんもねえ、さつさとでてっちまってくれ！ 俺は得体のしれないもんは傍に置いときたくな

い方なんだ！

変質者

ですが、この辺りにせいぎがいるはずなのです。でしょう？

ゴミ廃棄人

…、はーはーはー。成程、そーいうことか…、そのせいぎってのは、あんたらの、その気味の悪い、お仲間ってことかい。け、そんな奴この辺りにはいないよ！ ここはこの世の終着点…、ここより先は、忘却の彼方…、そこに向かってこんなに河が集まってきてる…、近いんだよ、ここは！…漂う言葉を また掴み 断崖へ捨てる

変質者

…それ、さつきから何捨ててらっしゃるんですか？

ゴミ廃棄人

…、ゴミだよ。どんどん忘れられていくばかりの、言葉の過剰分さ。

変質者

もしかして、それがあなたの仕事？

ゴミ廃棄人

だから何だっていうんだ。ええ？…、まさかあんたらは俺の居場所だけじゃ飽き足らず。仕事まで奪うつもりか！??

変質者

言葉を、捨てるのが。あなたの仕事ですか？

ゴミ廃棄人

あ…、あんたらに何がわかるんだ！ 俺みたいななあ、薄暗い場末でしか息のできない、肯定よりも否定でかたどられている奴なんてのは、まともな仕事なんて今更出来ねえんだよ！

変質者

…、そうですね。わかりますよ。あなたの苦しみ、つらさ、惨めな気持ち。

ゴミ廃棄人

にらみつける。

変質者

ですので、こうしましょう。あなたに仕事を与えます。

ゴミ廃棄人

…、はあ？

変質者

その代わり、このあたりで滞在させて下さい。なに、屋根はなくてもいいです。このすぐ外で結構、野営は慣れてます…、どうでしょう。これは、お互いにとって、いえ、人類にとって、素晴らしいことだと思うのです。言葉を無駄に捨てずに済むのですから。

ゴミ廃棄人

そんなうまい話があるか！

変質者

硝子、鷲鼻、櫓葱、蝸牛。紙をください。そうですね、あれがあったはずだ。麻でできた、紙。

部位たち

各々、紙を出し ゴミ廃棄人に突きつける。

変質者

これに、捨てるはずの言葉を書き写すのです。

ゴミ廃棄人

…、書くって…、なんだよ。それだけか？

変質者

ええ、それだけ。それだけで、あなたは人類にとっての英雄です。人を殺さずともね。

ゴミ廃棄人

俺が、、、英雄、、、？

変質者

その紙はいつでもお渡しします。歴史を、残すのです。部位たちが、再び 担ぎ上げる。

ゴミ廃棄人

俺が、、、俺が、、、

変質者

ほら、、、やってごらんさい、、、

ゴミ廃棄人

、、、漂ってきた、言葉を、掴んだ。
それを、麻の紙に読み上げながら、書き落とす、、、

：「すべての人間は生まれながらにして平等であり、その創造主によって、生命、自由、および幸福の追求を含む不可侵の権利を与えられているという…トーマス・ジェファソン：アメリカ独立宣言」、、、

独立、宣言、、、！

変質者、神々しく、再び掲げられる。

ゴミ廃棄人、麻の紙 高々と、掲げる。

その紙も、神々しく。

D o k u r i t u s e n g e n n

独りで立つということは、誰かと対等であるということだ

一括りにされたままでは、わたしたち想像も絶たれるほどの隔絶の隙間の前、

互いの顔すらしらないままだった

だから、永劫が一休みしている今、擦り切れつつある言葉を背に、

わたしはあなたと キスをしよう

おそらく、その瞬間。わたしたちは／が、この世界で最も近くいられる

持つ人

腕が 伸びている。

持つ人

あるいは、身体が 伸びている。

持つ人

もしくは、身体を 伸ばしている。

持つ人

もしかすると、意識を 伸ばしている。

ある人

その身体は あなたのものです。

持つ人

腕は、伸びている。

確かに、伸びていつている。

ある人の手前まで、

そして、ダンスを踊りだす。

ある人

持つ人の 淵を なぞりだす——

持つ人

境界線が、まだ、身体の淵にしかなかったころ 人類は隣人も愛せなかった。

愛という言葉すらなかった。なかった——。

ある人

持つ人の淵を なぞっている。

持つ人

あるいは。境界線が、まだ、身体の淵にしかなかったころ 人類は隣人も愛せなかった。のだろうか。言葉は——。

ある人

なぞり終える。

持つ人

ひとつだったんだらうか

——誰から？

ある人、空間的に離れていく

持つ人

ひとつ だったんだらうか

——誰に向かって？

ある人、時間的に離れていく

ある人

観測し始める——

持つ人

それからしばらくして 言葉は、波紋のように、あるいはうねりゆく雲のように、あるいは精緻な蜘蛛の巣のように、地平を覆いながら 枝分かれしながら 広がって行って、地球の裏側で 再び出会う

ある人

その時 それは

持つ人

地球の裏側で 再び

ある人

どんな おもかげですか。

持つ人

つながろうと ひとつになろうと している

ある人

とおくを みて とおくの とおく
地球の裏側 宇宙の最果て 時間をこえて

持つ人

あなたをしようと している

ある人

あなたを しろうとしている

ひかりを端緒に ここでは、一時的なつながりが行われる。

一瞬 たった、一瞬

持つ人 ある人 待ち人が時間と空間を共有する。

持つ人、分断を乗り越えようとする。

ある人は、意図的であれ無意識的であれ、それを阻止してしまう。

ある人、分断を乗り越えようとしている。

待ち人は、無意図的に、それを阻止してしまう。

持つ人、分断を乗り越えられない。

以後、同時空間的につながることはない。
ひかりは消え 空間は薄暗くなる。

正しい人

…、いない。誰も。もはや人は、ここにはいない。…、ほら。お前もこれなら、
出て来れるだろ？

せいきを断崖から引きずり出す。

せいき

うう、…、うう、…、

正しい人

いつまで泣いてるんだ、オオカミであり貞淑の存在。名はせいきと言ったか。
おいおい、まるでこっちが泣かせたみたいじゃないか。

せいぎ

うう、、、うう、、、

正しい人

もしくはそれは、うめいているのか？、、、どっちでもいいが、私が君にしてあげられることはこれだけだ。あとは自力で元の居場所に戻るんだ。

檜葱

せいぎー、せいぎやーい。

驚鼻

せいぎー、せいぎやーい。

硝子

せいぎー、せいぎやーい。

せいぎ

うう、うう！ 断崖の際に戻ろうとする。

正しい人

こら！ そっちに行くんじゃない！ 断崖の際は君の居場所じゃないだろう！

せいぎ

うう、、、うう、、、

正しい人

君の居場所はほかにあるだろ、そうだろ？、、、私は知っているよ。君の幸せそうだった頃。、、、あれは、とてもとても、長い時間だった。それがなんだ、たった少しの時間構ってもらえなかったからって、これか！ おいおい、ちよつとはこつちの気持ちにも、、、あ、待て！ おい、どこに行く！ いかせない、いかせないぞ、、、ああ、ああそうだな、確かに私は君の幸せそうだった頃なんてしらないさ、なぜなら私はまだその少しの時間くらいしか生きていないからな！

せいぎ

う、、、うう、、、うーう、、、

正しい人

、、、あのねえ。少しは言葉にしないと、君の主張は通らないぞ、、、ああもうわかった。私もう少し連れて行ってあげよう。ほら。歩くんだ。何とか引き連れて、出ていく。

暗い部屋で、画面がつく 薄暗い。

持つ人

：みえないあなたたち、みえたあなたを 信頼してる。
信頼してるから、この言葉が、届いていると信じている。

あれ。届いてる？ もしもーし？

返事も反応もない。

持つ人

……あ。じゃあ、これは聞こえる？
レコードを回し出す。

待ち人

「まもなく、だった。」

「まもなく、ということ、こうして間もなく前にしっている」

持つ人

…、聞こえてる？

待ち人

「まもなく、間もなく、それはおこるところだった。」

持つ人

…、これがなにか、わかる？

再生機は歴史が始まって以来、ずっとリピートは押されたまま。

持つ人

…、わかったよね。

待ち人

「まもなく、間もなく、…」

持つ人

そう。きっとどこかで、聞いた事あるよね。うん。過去からの、警鐘。

繰り返し、繰り返し、待ち人は、繰り返し。

持つ人

これさ、まあ今更だから言っちゃうけどさ。結構、スベってたよね。これ。このビデオレター。…、はは、ほらもう、忘れてたでしょ？…、あ。ほら。ほらほらほら。ぜんっぜん、記憶にないって顔してるもん。もう全然。覚えてなかったでしょ。いや、いいよいいよ、こんなの。みんな忘れてる。一瞬…、ほんと

一瞬だけ、ね？ あ、この、一瞬、つてのは、何も本当に一瞬ってことじゃないって、、まあ、わかるよね？ だって私／僕ら、おんなじ言葉 使ってる、わけで。…あ、で。過去からの警告、みたいな感じで一時期マスコミだけ騒いでて。オンライン上の僕／私らは、いつもみたいに冷ややかにみてた。どうせすぐ忘れられる。どうせすぐに。ほら？ 忘れてるもんね。…球体の上から落っこちないように、同じことを繰り返すしかない サークラス小屋の猿たちに、向けられた、このビデオ。みたいな謳い文句だったっけ。…何とも切れたナイフだよ。でも握り手がいないから、誰も傷つかない。誰も、誰も。

待ち人

「まもなく、間も無く、それはおこるところだった。」

持つ人

なんていうかさ。ずっつと繰り返すだけで スルーされるだけと分かったうえで、こんなの残しちゃって。こうなるって、わかってたのかな。

待ち人

「間も無く、まもなく、」

持つ人

…、哀れだよ。

待ち人

「まもなく、間も無く、」

持つ人

そう思うでしょ？

待ち人

「それが起こることを、」

持つ人

哀れだな

待ち人

「しっぺい

持つ人

「レコード 切った。
聞き飽きたよね。」

画面のひかりが、色彩豊かになる。

「部屋を暗くしてご鑑賞下さい」の文字。

持つ人

ねえ、踊ってる？

— 02

廃人たち、さまざまな方向から入ってくる。踊っている。
ひかりを 中心としてしまって 照らし照らされ。
クラブのかがやき 照らし照らされ。

ある人

微動だにしない。望遠鏡をのぞいている。

持つ人

踊ってる？

ある人

微動だにしない。反応がない。

持つ人

踊ってないのかよ。

ある人

微動だにしない。

持つ人

なんか言えよ。

ある人

反応がない。望遠鏡を のぞいている。

持つ人

、いなくなる。

ある人

、ここは、クラブという、場所で、だけれど、場所というには、あまりに虚構で、それは、オンライン上にしかない、場所で、

それぞれ つながったり つながったりしている

ある人

人々は、フィジカルさを失ったここで 夜な夜な、踊っていた。らしい。

持つ人

踊りながら、また現れる。

ある人

夜な夜な、画面のひかりに彩られる薄暗い部屋で、

持つ人

オンラインクラブ、サイコー！！

廃人たち

サイコーー！！！！！！

ある人

踊っていた。らしい。

持つ人

踊らないの?!?!

ある人

らしい。

持つ人

踊ろうよ！ 私／僕たち、もっと、分かり合えるよ！

ある人

そのことを、しっただのは

持つ人

Fooooooooo!

廃人たち

Foooooooooooooooooooooooooooo!!!

ある人

最近のこと。

持つ人

踊りながら、いなくなる。

廃人たち

数名を残して、散り散りになる。

ひかりなども、すべて どこかに行ってしまった。

ある人

…まるで微生物たちの世界だ。

…最近のこと。

最近 過去のことについて、しりたくなって。

歴史なんて、せいぜい、覚えていられるのは数千年程度なんだと思う。何億年

前のことなんて、さすがに記録として残らないんだ。誰からも、忘れ去られ

て、誰の口からも、しゃべられなくなって、あったことすら、なくなる。

だから…、ただ、しりたくなった。しらなきゃいけない、気がした。

…星がみえる。まだ、小さい。あの星は、何て名前だろう。

廃人たち

床に散らかっている。

廃人1

…、なあ、

廃人2

うつぶせたまま。

廃人1

なあって！

廃人3

ダメだよそいつ。もうつぶれきっちゃったよ。

廃人2

崩れる。呆けた顔がみえる。

廃人1

なあ…、だめだ、もう音には反応しないじゃないか。

廃人3

ひかりがないとなあ。もうそれにしか反応できない。

廃人 1

ダニめ、、、

廃人 4

あんたらも ダニでしょうが。

廃人 3

ああ？

廃人 1

一緒にするな、！

廃人 4

いやいや。あたしとあんたとあんたは、そりゃ、別々だけれどもさ。大きな枠では結局一括りになっちまってるんだよ。ええ？ そういう、括り方をされちまってるって、こと。わかる？

廃人 3

わかんねえよ。

廃人 1

こんな風には、、、ならねえよ！

廃人 4

いやいや。あたしとあんたとあんたも、そこできたばってるやつと同じく、もうひかりがなきや、立てやしない。だからダニっていわれるんだよ。そのひかりが視界に入る、まで、永劫待てるんだから。

ゴミ廃棄人

入ってくる。漂う言葉を、掴んで、また麻の紙に書き写している。、、、、「恥の多い生涯を送って来ました。自分には、人間の生活というものが、見当つかないのです。、、、 太宰治」、、、はは、恥が多くて、ここだったら生きて行けたのかな。

廃人 3

、、、 あいつ、またやってるぞ。

ゴミ廃棄人

、、、 あった。恐る恐る、そっと、それでいて、素早く！ 掴む「極端なプライド または落胆は、自己の極端な無知を示します。、、、バールーフ・デ・スピノザ」、、、すべて知ろうとするなんて、なんてプライドが高い奴だ、、、書き写す。

廃人 1

あいつまで最近狂っちまいがったのか？

廃人 4

おい。アンタ。こないだまでやってた仕事はどうしたんだい。

ゴミ廃棄人

夢中になっている。ああ？ あの仕事？ ゴミ捨てのことか！？ ハッ、あんなのもうやめちまったよ！ 俺は、俺にしかできないことをやっているのさ。、、、 振りむき、てめ、ダニが！ 直接話しかけんじゃねえ！ 手は出ない。

廃人 3

なんでえあいつ。普段だったら話しかけられてもガン無視かすぐキレるのに。

廃人 1

、、、 ダメだ、ぼやけてよくみえない。

廃人 4

あんた、目が悪いのか？

廃人 1

ああ、くそ。どうしてこんなことになっちまったんだ。

廃人 3

俺はもう鼻が利かなくなっちゃったなあ。ああ、イチゴのショートケーキが食べてえ。食べたこともないような、食べたことのないものを、食べてえ、、、

廃人 4

いまさら後悔か？ わらえるねえ。あたしもあんたもあんたも、、、そこでひかりを待ち伏せているやつも、いやそれだけじゃない。まだ深淵をしらない踊ってるだけのやつらも、すぐにこうなる。、、、ここにきたってことは、ここで踊ってるってことは、もう捕えられちゃったってことなのさ。

廃人 1

みんなって、、、括るんじゃねえ！！

廃人 3

捕えられるって、、、じゃあ何かい、俺たちあとは食われるだけってのかい？

廃人 4

いいや、食われるというよか、それはもつと痛みのない、、、忘れられるのと、似ている終わりだよ。

廃人 3

中身がないねえ。まるで虫けらだ。

廃人 1

俺はそんなんじゃない、俺はそんなんじゃない、俺はそんなんじゃない、、、倒れる

廃人 4

あーあ。まただ。今月で何人目だ？

ゴミ廃棄人

、、、プラトン、バーナード・シヨ、セルバンテス、司馬遷、ゲーテ、カフカ、マハトマ・ガンディー、マルセル・ブルースト、レフ・トルストイ、三島由紀夫、フェルディナン・ド・ソシュール、ホー・チ・ミン、ダンテ・アエギエーリ、ネルソン・マンデラ、アリストテレス、、、はは。大量だ。大量、、、あらゆる、縦の言葉たちが、ここにはある、、、そしてあらゆる横の言葉たちに、翻訳されている、、、大声で笑う。まだ、まだ仕事だらけだ！

— 03

持つ人

踊りながら、独り、出てくる。Fooooooi!

誰からも、反応はない。

持つ人

踊っている。誰をも、みないようにしている。誰へも、届こうとしている。

ある人

みている。

持つ人

踊っている。

ある人

みている。

持つ人

踊っているしかできない。

ある人

みている。

持つ人

踊って

何も変わらない。

蝸牛、入ってくる。

ある人

みている。動いていないようだけど、動いてるんだなあ。

蝸牛

…あ、え…誰か、いる？

持つ人

踊っている 蝸牛に向けても。

ある人

みている。

蝸牛

…いないのね…

ある人

みている。

持つ人

踊っているのだ

硝子

…おい。おい。おい。

檜葱

せいきー、せいきはいないのかー。

驚鼻

おい。おい。おい。

蝸牛

あ…いかなぎや。

声の方に、出ていく。

正しい人

せいきをおんぶしながら、出てくる。せいきは 寝ている。
おーい。おーい。おーい。
…、さっきから、この辺りから離れられないみたいだ。
おーい。おーい。おーい。誰かいらないか？

持つ人

踊っている。

正しい人

…、あ。その人。

持つ人

…、踊りをやめる。

正しい人

あのさあ、このあたりの出口ってしらないか？

持つ人

聞こえていない。疲れた。ふらつきながら、胸に手を当て、心がいたい。

正しい人

…、君、大丈夫か？

持つ人

そのまま、部屋に閉じこもる。

正しい人

…、上の空。酩酊した様子で、心拍数も上がっていた様子。それに幻覚症状もあるかもしれない。何もない空間で、扉を開けるしぐさをしてた、…。
あいつもしかして、やってるな？…、クソ、ほっとけない、ほっとけないことばかりだ…、おーい。おーい！ ここだ！ ここ！ 暗くてよくみえない！
ここに出口はないのか！ 誰か、誰かもっと、ひかりを当ててくれ！ 誰かを呼びに行く。

クラブの再開。ひかりは乱反射し、照らすものと照らさないものを、節操なく決める。

持つ人は、暗い部屋 片隅。踊らない。

空間ではいろんなものが交わされて、つながりは増幅し、誇張していく。

しかしそのつながりに、フィジカルさはない。オンラインである。

その交錯のたび 誰かがなにかを落としていく。

断崖に落ちていく。

流れていく。

忘れられていく。

ある人

ああ、ひかりが、ひかりが明るくなっていく！ どんどん速くなって、どんどんとおくへ行って、ついには、時間を越えていく！ 重力とおさらばして、身体もばらばらになって、一筋の、線となって、ひかりと同化していく、、、とおくへ、とおくへ、とおくへ、節操なく、時間を、越えて！！！！

さげび その姿を、断崖の中から表す。

さげび

流れ着いたものを、食べている。

以下、交錯の中で現象する。

変質者

では、まだせいきはみつかっていないですか。

驚鼻

ああ、まだみかけておらん。

硝子

本当にこの辺りにいんのー？

櫓葱

もうずいぶん探してきたよ、、、そろそろいなぎやおかしいじゃない

変質者

ええ、あの果てから、こっちの果てまできました

蝸牛

でも、、、いなかっただ、

驚鼻

本当に、こっち側なのか？ もうすでに、向こうに、

変質者

そんなことありません できるはずないです

硝子

でもいなかっただじゃんさー。ここまで、これっぽっちもさあー

変質者

ではここから、いるはずですよ いなくてははいけません

蝸牛

いなかっただら、、、？

変質者

その時は、、、考えねばなりませんね

櫓葱

考えたく、ないねえ

蝸牛

、、、え

変質者

今はよししましょう。みつければいいのです。みつかるはずですよ。せいきも含め、私たち、元は一つなんですから

蝸牛

：ねえ、なにか きこえる、

変質者

音、ですか？

蝸牛

：なみの おと

一切 ここには 海はない

さげび

…、残念だったなあ。残念で残念だから残念は逆立ちをしてペットボトルを集める ああ、あれは、うまかったよ。うまかった、と言われればお決まりの表情をした扇風機 先は、揺らぎ ページのくちばし とてもとても お楽しみで小さい…、仕方はサイコロ ミュージ アムではでは おいて 飛行機じゃあ威張り食う者 こわばり 失ってはじめて オリンピック 蟹がオンライン カヌーがカレー そういえ ばばばば ば イチ ニャー とんで、とばない モツマデ アンド 緯度がアンドロイドの肘を担いでオーディオして電柱するまで まで 食べたかった タベタカッタたらばがに

波がひくようにして、交錯は一旦終わる。ひかりはまだ踊り続けている。

— 04

ある人

望遠鏡を覗いている。ひかりを観測している。

ああ、あと少し、あと少し。そんな予感。旅路が終わる。宙で三転倒立して る きぶん きつと、あと少しで、ビッグバンの向こう側、素粒子の構造、あなたのおもかげに 届きそう——。ねえ、過去を、しりたい。しりたいの。

待ち人

ある人の視界に入らぬように、無意図的に 彷徨っている。

ゴミ廃棄人

言葉の残滓を追って、彷徨っている。

ひかり、待ち人を、いたずらに追いかけ始めた。

ある人

あ…、まって…、みえて、みえてきた…、あれは、何だ…、明滅している…、あ。これ、通信だ…、通信だ！！！！ 過去からの、通信だ！ ひかっている、瞬

いている！ なにかをつたえようと、している、、！ 狼煙を上げろ！ ドラムを叩け！ モールス信号を打て！ 電波は届くか、無線はどうだ、衛星を使え！ 、、、インターネット！！！！ こんな時くらい役に立てよ！ 、、、あ、、、まって、、、わかる、きこえる！ きこえた！ きこえるよ！

待ち人

：「ある駅で、ホームレスを、、、人たちを、みたんです。当たり前前の、光景だったと思います。なんの変哲もない、ごく当たり前な 愛の囁きあいだったんです。私は、でもそれを見て、でも、でも、、、心が、ざわつきました。今にもことごとくしてしまいそうな、二人の愛の人たちは、私たちを真っ二つに分かちました。それはつまり、不干渉と、無視です。私はそのことに気づいてしまいました。私にとっては、これはリアルだ。けれど、横を通り過ぎていく私ではないその人たちにとっては アンリアルでした。私たちは、そうして、私たちであって、私たちでないと気付かされました。そして、この二人にとっても、私はアンリアルな存在でした。次の瞬間、二人は 私を睨んできました。誰よりも、近づけたと思った、私のことを、この二人は 睨んできたんです。」

ある人は、耳を澄ましている。

待ち人をみつけようとしている。

ある人は、泣いているかもしれない。

気づくと、いろいろな方向に、廃人たちが こちらを睨んでいる。

ある人

過去は、過去から、どうなってしまったの？

待ち人

「それからして、」

ある人

過去、現在、未来、そして、「」。

待ち人

「まもなく、間もなく、」

待ち人のレコードが、回転して、いた。

限界は、ある。

それは未来に収束しているようにみえる。

待ち人

「間もなく、まもなく、それが起こる、」

ある人

間もなく先を、起きたはずの過去を、「」はしっているはずだ。

待ち人

消えていく。何事も、起きていくことをしらない。レコードも止まる。

ある人

…、あ、待って！

ゴミ廃棄人

…、待て！ 追いかける。麻の紙を落としていく。

ある人

ゴミ廃棄人が落としていった麻の紙を拾う。そこには、言葉が書かれていた。「空想は知識より重要である。知識には…限界…想像力は…世界を…包んで…包んで…包んで…」

薄暗い部屋。

秒速約30万キロ 質量はなく これからも、変わらない

そんなひかりを幻視し 廃人たち おどっている

持つ人も また おどっている

薄暗い部屋。その人しか照らさないひかりだけ、煌々と

ある人は突然、光速の中で 持つ人とつながった。

ある人

、ここは、クラブという、場所で、だけれど、場所というには、あまりに虚構で、それは、オンライン上にしかない、場所で、

持つ人

オンラインクラブは、そのころ、やっぱり新しくって。互いの身体と身体が延長していくような、それでいて どれだけ離れていても、つながれるような、そんな気がしていた、んだけれど

持つ人 覚えてる？ あの時のこと。

ある人 …もう忘れた。

持つ人 思い出してよ。

ある人 もう、忘れた。

持つ人 あれは確か、

ある人 やめてよ。

持つ人 やめられないよ。あれは確か、あなたが初めてこっちの時代につながれた時、

ある人 やめられるよ、

持つ人 オンラインクラブで、私／僕たち、つながった。

ある人 …それは ここは 過去？

持つ人 ねえ、踊ってる？

ある人 微動だにしない。

持つ人 踊ってる？

ある人 微動だにしない。反応するか、悩んでいる。

持つ人 踊ってないのかよ。

ある人 微動だにしない。悩んでいる。

持つ人 おーい。言葉、届いてますかー？

クラブの波が激しくなっていく。ドツドツドツドツドツ。

持つ人

：ねえ、私／僕ら、通じ合ってるー？ ドッドッドッド。

ある人

通じ合ってる、？

持つ人

：あ。もしかして、この空気に、酔っちゃった、感じ？ ドッドッドッド。

ある人

あなたを しりたい。

持つ人

：あ。じゃあさあ、先に、このまま、いっちゃうか？ ドッドッドッド。

ある人

どこにだろうか。

持つ人

いやいや、言わなくても、分かるでしょ…？ ハハ。ドッドッドッド。

ある人

わからないなあ。

持つ人

あ、だからあ、…ワンチャンスとか、… いや、言わせないでよ。ドッド。

ある人

あなたがこれからしようとしていることは、こっちにとっては、過去だ。

持つ人

：いやいや、僕／私、別に、元々、フィジカルなクラブの頃も、別に、そういうの、別に、興味なかったからね、そういうの。別にここ、ベガーズ・ベニゾンとかじゃ、ないし。ドッドッド。別に。

ある人

この後あなたが何をするのか、知らないままだけれど。

持つ人

性欲でさあ、通じる、っていうか、つながる、っていうのはさ、すごくなんか、根源的っぽくて、否定できなくて 色褪せることないように思えるんだけどさ、いやその実、ぜんぜん、ぜんっぜん古臭いと思っていて、ドッ。

ある人

あなたが延長して行った先に、こっちは存在していて。

持つ人

もっとさ、新しいつながり方をさ、生み出す時なんじゃないかって。ここからさ。もうそういう時代になっていく時なんじゃない？ 21世紀、今。ドッド。

ある人

その時間は、確かにあって、

持つ人

だからね？ まあね、一回ね？ 一回だけね？ ドッドッド。

ある人

だからこれは、どうしようもなく、過去だ。

持つ人

やってみたかったわけだよ。ドッド。

ある人

時間を越えて、空間を越えて 「」とあなた つながれる——？

持つ人

オンラインセックス。ドッ。

廃人たちが 波のように引いていく。
濡れた砂浜が、足跡をくっきり残していく。
また消えてしまうまで、しばらく時間がある。

ある人

…いや、オンラインセックスって、何だよ

持つ人

…え？ あ、…、そういう感じ？ …しらない？

ある人

…え。

持つ人

あ、いやその…ハハ。 ごめん、さっきのは忘れて、

ある人

、うそ、

持つ人

いや嘘っていうか、忘れてほしいのは本当っていうか、…

ある人

…、ねえ、まって。

持つ人

まってっていうか、まちたくないというか、…、あの…、こう…、水に、河に、こ
う、サラ〜っと、ね、流してほしいというか、サラ〜っと、

ある人

どうして、

持つ人

どうしてって、いうか、サラ〜って いうか、

ある人

声 聞こえてるの？

持つ人

…その時初めて、その目の前の存在が 存在しないこと。その声が、物理的じ
やなくて、感覚的にわかってしまうこと。とても、新しいこと それはとても
とても、新しかったこと。わかって、しまった。出会ってしまった。出会って
いない存在と 出会って、

ある人

この声 届いているの？

持つ人

…、何語？ 何語だ…、？ 英語？ フランス語？ ドイツ語？ …、エスペラント語…、それとも…、コーンウォール語？ ハワイ語？ アラゴン語？ ムーラ語？ ゴマラ語？ ソクナ語？ イテリメン語？ 済州語？ ツバル語？ それともギリシャ語のカッパドキア方言？ あるいは、アイヌ語？ もしくはヘブライ語？

…、いや…、わかる…、わかるよ！ 聞こえるよ！

ある人

聞こえて いますか？

持つ人

…、って、言ってる、だから…、今、今、わかるように、ね？ あなたたちには、「聞こえて いますか？」って、わかるように、翻訳してあるんだけど

ある人

伝わって いますか？

持つ人

今は、あなたたちには普通に、聞こえてると思う、んだけど、私／僕には、ぜんぜん、知らない、よくわかんない、あ、たぶんそれって未来人だからなんだと思うんだけど、あ、まだ存在しない言語だ、って感じの、なにか、で脳内に語りかけてきてて。でも、でもね…、わかったというか、だからこうして、翻訳しちゃってるって、いうか。

ある人

本当に全部 伝わって いますか？

持つ人

…、って、言ってる、けど、だから、僕／私は、この人の言葉の中でも…、いくつかの、言葉、っていうか、意味？、については、翻訳してない。てかできない、したくない。例えば、この人の一人称は、

ある人

「」

持つ人

…、って言うらしいんだけど、それを「私」とか、「僕」とか、言っちゃったら、なんかさ、違う、っていうか、なんていうか、やっぱり私／僕たちとは、違うニュアンスがあるわけだよ。

ある人

「」の 声は どれだけの距離を越えて 届いている？

持つ人

ああ、届いてる 届いてるよ 、、、多分想像もつかない、生涯かけても辿れないような、距離を超えて、これって、まさにさ、

ある人

「」、もっといろんな人と 過去と、つながりたい

持つ人

：ああ、ああ。わかったよ。任せて。私／僕が、できる限り、つなぐから。だから、僕／私たち、もっとつながろう？ もっと深く、もっとこの距離なんてなかったことにするように、、、あなたのことを おしえて、あなたの、未来もおしえて？

ある人と持つ人、どんどん近づいていく

あわよくば 生殖行為を考えている ようにもみえる

断崖を挟んで、ふたり ベガとアルマイル

ひかりの速さで14年半 距離を 分断を 乗り越えようとしている

正しい人が、ふたりの間を 引き裂くまで。

正しい人

何してるの。

持つ人／ある人

隠れて行為に及ぼうとしていたカップルが誰かに声を掛けられた時のようなふるまいをする。

正しい人

あのさあ、、、こんな白昼堂々、そんなふしだらなことするやつがあるか。

持つ人

白昼じゃありません、

正しい人

え？

持つ人
白昼じゃあ、ありません！

正しい人
：あ。お前、どこかで見たと思ったら！あの時ヤクやってたやつじゃないか！？、、まだ幻覚みえてるのか？いいか、こっち側じゃなあ、使うのは違法じゃないが、持ったら違法なんだ。今調べてもいいんだぞ。

持つ人
、、持ってません。

正しい人
え？

持つ人
だからあ、持っていないですって！てかそれ、変じゃないですか？普通逆じゃないですか？

正しい人
、、反抗的だな、お前。まあいい。今私は忙しい。人を迷子にしてみました。ね。なあ、この辺りで、「うーうー」としか言わないやつをみかけなかったか？みてないです。

正しい人
そっちの人は？

ある人
みてないです。

正しい人
、、？君はこの国の人間じゃないのか？変な言葉をしゃべるんだね。

ゴミ廃棄人
相も変わらず、言葉を探し、書き写している、、、「世界は本であり、旅行しない人は一ページしか読まない。、、アウレリウス・アウグスティヌス」、、もはや

世界の片隅からだけでも、世界を知る時代になったわけだ、、

正しい人
あ、あんた。

ゴミ廃棄人
：飛ばされてきた言葉を書き写す、、「あ、あんた。」、、誰だてめえ。

正しい人
この辺りで、「うーうー」とか「うーうーうーうー」とかしかいわないやつをみかけなかったか？

俺の質問に答えるよ！俺は！お前が！誰か！って聞いてるんだよ！殴り掛からない。

正しい人
：なんだ。殴らないのか？

ゴミ廃棄人
な、殴る？馬鹿言うな、そんなことしちまったら、おめえ、、お、恐ろしい！そ、それはいけないことだろうが！！

正しい人
おもわず、吹き出し。大笑いしながら明後日の方向に出ていった。

ゴミ廃棄人
：なんだあいつ、変な奴だな、、待て。あいつ結局名乗らなかつたじゃねえか！クソ、クソみてえな奴だ！肥溜めよりも肥溜めだ！クソの極みだ！

自分の名前も明かさないので、歴史に残ろうとしやがって！

持つ人とある人の方をみる。…、おい。おい！ そのお前ら。お前らはあいつの名前、しらねえのか？？？

いや、…、しらないよ。

「」も、

ゴミ廃棄人

…、？…、変な言葉をしゃべるんだな。書き写せねえじゃねえか。…まあいい。お前らの言葉は、なんか、あれだ。…、発情したアメーバのやり取りみてえだ。もしくはプラナリア。

持つ人

はあ。

変質者

呼びましたか？

ゴミ廃棄人

呼んでねえよ！ …、急に出てくるな、…、俺は小心者なんだ、ビックリ死しちまうだろ！ 殴らない。

変質者

あら。優しいんですね？

ゴミ廃棄人

お、…、俺が、優しい？

変質者

ええ。今、とっても優しさを感じました。

ゴミ廃棄人

おお、なんだ、…、お前、案外いい奴だな。

変質者

ええ、あなたも案外話を通じる人でよかったです。

ゴミ廃棄人

へっへっへ、…、そうだろそうだろ、…、俺は、結構 優しい人間なのさ。…、そういえば他の連中は？

変質者

この辺りを探し回ってますよ。この辺りすごいですね。遠くに行きたくても行けないっていうか。先に進みも、後に戻りもさせない。

ゴミ廃棄人

ハン、…、そんなに悪くないだろ？ 眺むるは都、住めばゴミ箱ってな！ …、で、まだみつかんないのか。その、…、せ、せ、…、せいえきってやつは

変質者

せいきですね。まだです。

ゴミ廃棄人

ああ、そうかい。みつけたらさっさと出てってくれよ。

持つ人

あの、…、

変質者

おや？ おしりあいですか？ はじめまして。

ゴミ廃棄人

あ？ しらねえよ。こいつらただの変態たちだよ。

持つ人

あなたは、人間なんですか？

変質者

実は元人間です。

ゴミ廃棄人

どっちでもいい。ここは、ラベルのゴミ捨て場だ。

さげび

突然飛び出してくる！

廃人たち

追いかけてくる！

混乱する空間。

廃人たち

待て！

廃人たち

逃がすな！

廃人たち

あいつを捕まえろ！

廃人たち

泥棒だ！ 泥棒！

廃人たち

何の泥棒だ！？

廃人たち

わからねえ、ただ確かに、奴は何かを、奪った！

廃人たち

奪った！

廃人たち

奪った！

廃人たち

奪った！

廃人たち

奪う！

廃人たち

奪う！

廃人たち

奪う！

廃人たち

奪う気だ！

廃人たち

奪う気だ！

廃人たち

奪おうとしている！

ゴミ廃棄人

さげびとぶつかる。うわ！ 持っていた麻の紙を大量にまき散らす。

さげび

その中から一枚拾う。そしていつの間にか用意されていた高いところに登る。

廃人たち

ステージの周りを囲う。書き残す必要すらない野次が飛び交う。

さげび

そして、その紙を、上に高く掲げる。

強引にクラブが始まる。

ひかりは、良いも悪いもなく、照らし出す。色彩、豊かに。

廃人たちは、野次を飛ばしている。会話ではない。

次第に。

廃人たち 独り、踊りだす。独りたちが、踊っている。持つ人もその中にいる。踊ったり、踊らなかったりしている。

ある人

、ここは、クラブという、場所で、だけれど、場所というには、あまりに虚構で、それは、オンライン上にしかない、場所で、

持つ人

オンラインクラブは、そのころ、やっぱり新しくって。互いの身体と身体が延長していくような、どれだけ離れていても、でも結局つながれないってわかってしまっていた。

ある人

ねえ、これがオンライン、クラブ？

持つ人

そうだよ、これが、つながりたくてもつながれない オンラインクラブ！一緒に独りで踊る？ それとも、そこでみてる？

さげび

さげび、その紙をひかりに透かす。ひかりはノリノリで流行りの音楽を流している。

さげび、その紙に書いてある言葉を――

「すべての人間は…生まれながらにして、…て、…て、…天の人を生ずるは億兆皆同一轍にて、之に附与するに動かす可からざるの通義を以てす。即ち其通義とは人の自から生命を保し自由を求め幸福を祈るの類にて、他より之を如何ともす可らざるものなり。人間に政府を立る所以は、此通義を固くするた

めの趣旨にて、政府たらんものは其臣民に満足を得せしめ初て真に權威ある
と云うべし。政府の処置、此趣旨に戻るときは、則ち之を变革し或は之を倒
して、更に此大趣旨に基き、人の安全幸福を保つべき新政府を立るも亦人民の
通義なり。是れ余輩の弁論を俟たずして明了なるべし。○因循姑息の意を以て
考うれば旧来の政府は一旦輕卒の挙動にて変じ難しと思うべし。然れども
同一の人民を目的と為し強奪を恣にするの悪俗を改めしめずんば、遂には
自主自裁の特権を以て国内を悩ますに至るべし。故に斯の如き政府を廃却して
後来の安全を固くするは、人の通義なり、亦人の職掌なり。○方今我諸州正
しく此の難に罹れるが故に、政府旧来の法を变革するは諸州一般止むを得ざ
るの急務なり。英国王の行いを論ずれば不仁慘酷の他に記すべきものなく、
専ら暴政を以て我諸州を抑圧せり。今其事実を枚挙し之を世界に布告して其
明論を待つべし。、、、、 亜米利加十三州独立の檄文、、、、 訳者、福沢諭吉」

その紙を、麻の紙を、独立宣言の言葉を、檄文を

食べた。

フロアは熱狂し、廃人たちは、熱狂の黒い渦の中にいる。
ひかりは乱反射し、野次は歓声となり、ハイとなった集団は、暴動寸前である。
踊り狂い、誰しも、さげびをまねて、麻の紙を食べていく。
さんざめく、プラトン、バーナード・ショー、セルバンテス、司馬遷、ゲーテ、カフ
カ、マハトマ・ガンディー、マルセル・ブルースト、レフ・トルストイ、三島由紀夫、
フェルディナン・ド・ソシュール、ホー・チ・ミン、ダンテ・アエギエーリ、ネルソ
ン・マンデラ、アリストテレス、アルベルト・アインシュタイン、ジュリアスシーザ
ー、太宰治、バールーフ・デ・スピノザ、アウレリウス・アウグスティヌス、福沢諭
吉、、、、その他大勢の歴史に記録・翻訳された言葉たち。

ゴミ廃棄人

、、、、 おお、、、、 おお、、、、 そうか、、、、 俺は、このために、この熱狂のために、言葉
を記録してきたのか、、、、 ハハ、ハハハ、、、、 おいテメエら！ ここにもっと、紙
はあるぞ！ 言葉があるぞ！！！！

大量の麻の紙をまき散らす。

ある人

「、、どうして、ここにきてしまったんだろう、「」。、、歴史は、現在は、どうしてこうなってしまったのだろう。、、」「もっと、ひかりのあたらない、忘れかけられている過去が、、過去が、、過去を、、しりたい、しらなきやいけないきがする、それは、傲慢？」

待ち人

ある人の後ろを 影のように通り過ぎる。

ある人

「、、あ、待って！ 追いかける。」

しばらく踊りがある。

それは歴史である。闘争の歴史である。

そしてそれは、ステージの移動をもって、その所在を移していく。

空間に残されるのは、潰れた廃人たちと、踏みつぶされた麻の紙。

変質者、従者に運ばれてくる。

変質者

周囲をみ渡す、、こうして、、歴史は繰り返す、、どれだけ言葉を残しても、肝心なのは意味ではない、、その輪郭です。そのあったという事実のみ 表面のみが、あなたたちを狂わすのですね、、ああ、ここももうすぐ、出ていかなければ。

硝子

えー。せいき、探さなくていいわけー？

変質者

いえ。早急にせいきはみつけ出しましょう。

檜葱

簡単に言うなあ。

驚鼻

せいきは、端がそんなに好きなのか？

変質者

いいえ。せいきは、追い出されたのです。

蝸牛

だれに、、？

変質者

人間ですよ。さあ、先を急ぎましょう。

変質者、従者に運ばれていく。

持つ人

潰れた廃人たちの中に混ざって潰れている。。。ひねり出すように、立ち上がり、ひねり出すように、言葉を、、、あ、、、そう、そうそう。あなたたちにとどけている、言葉、つてのはさ、あ、まあ、今は、あなたたちには普通に、聞こえてると思うんだけど、あ、まあだから、僕／私が翻訳とかして、伝わるようにしてるんだけど、、、私／僕には、ぜんっぜん、しらない、よくわかんない、言葉で、言葉でしかなくて、ほんと、何語だよ、せめて、エスペラントとかであれよ、とか——

ある人

「

」

持つ人

ほら。わかんない、よね、伝わらないよね、何言ってるか。これじゃあ、伝わるんないよな。ああ、どうしたら、伝わるんだろう。どんな言葉がいいんだろう。エスペラント語の中の、エスペラント、の、意味。しってる？ あなたの名前は、どんな意味なの？ ねえ、、、あれ。どこ？ どこに行ったの？

ゴミ廃棄人

えーなになに、、、「私たちに命じるのは国家ではなく、国家に命じる私たちです。、、、アドルフ・ヒトラー」、、、いいねいいねえ。ここには、無限のように言葉がある、、、まるで海のようにだ、、、ここからなら、世界の果てだって寝たままみえてくる、、、どれ！ 試しに寝たまま仕事しようか、、、

ゴミ廃棄人、河の傍で寝たまま、言葉を書き写し始める。
、、、「あなたの脆弱性からあなたの強さが生まれます。ジークムント・フロイト、、、」

「宇宙に存在するすべてのものは、偶然と必要性の成果です。、、、デモクリトス、、、」

「すべての真実は、発見されると簡単に理解できます。ポイントはそれらを見出すことです。、、、ガリレオ・ガリレイ」、、、

持つ人

あの。

ゴミ廃棄人

ああ？ 話しかけんなよ。俺は今仕事でぞ、、、なんだ、てめえか。プラナリアじゃねえか。

持つ人

あの。ある人、しりませんか？

ゴミ廃棄人

ある人お？ しらねえよ。どいつもこいつも探し物しやがって。せめて名前で呼んでやれよ。

持つ人

名前、、、なんていえばいいんだろうか。あの。

ゴミ廃棄人

、、、
ああ???

持つ人

あの人、あの人です、ほら。望遠鏡を覗いていた。ある、あの人。

ゴミ廃棄人

そいつはお前にとっての何なんだよ、プラナリア。

持つ人

プラナリアって。なんですか、、、？

ゴミ廃棄人

、、、はあ?? ?? ?? おめえは、自分がしりもしない、自分の体の一部でもない、完全な赤の他人を探していやがるのか?? ? ?

持つ人

、、、それが、何か問題なんですか？

ゴミ廃棄人

、、、かー！ー！。おめえ、未来人か?? ? ?

持つ人

ち、違う！ 私／僕は、現代人だ！

ゴミ廃棄人

みんなそういうさ。そりゃそうだ。みんな自分にとっての現在にしか生きていない。だがな、時間は相対的なんだよ。お前にとっては現在でもな、お前の時間をこっちに押し付けんじゃねえよ!!!

持つ人

ちよ、ちょっと待て。話を聞け。会話になってないぞ、

ゴミ廃棄人

うるせえ！ 未来人はここからでてけ!!! 殴り掛からない。寝たまま。

持つ人

、、、

ゴミ廃棄人

出ていけえ!!! 殴り掛からない。寝たまま。

持つ人

、、、はい、、、ふらつきながら、出ていく。

ゴミ廃棄人

この世界で、絶対的なのは光だけ。この世界で絶対的なのは光だけ。「この世界で絶対的なのは、、、ひかりだけ、、、」、これ、誰の言葉だ？
寝たまま、言葉を書き続ける。

ある人

少し高いところにいる。

あのね。「」は随分と、未来にいます。ずっとずっと、あなたと、離れていきます。空に浮かぶ星を想像してみてほしい。真冬の空にぼつり輝く一等星に、あなたの声が届くのは、どれだけ未来だろうか。まして、あなたに「」の言葉が返ってくるのはどれくらい 先だろうか。

言葉はひかりと同じ、質量を持たない。それどころか、ひかりより、軽い。軽すぎる。だから、光速をこえて、時間をこえて、どんどん、どんどん、はやくなって、、、だとしても、どれだけ早くても、あなたと「」は、同じ時間を過ごせないこと、わかってほしい。

「これは全て、あなたの言語に翻訳された言葉たちです」というテロップ。

ある人

「想像力は知識より重要です。知識は限られています。想像力は世界を取り囲んでいます。」

「これは全て、あなたの言語に翻訳された言葉たちです」という、テロップ。

ゴミ廃棄人

、、、、なんだか聞いたことのあるような言葉だな、、飽きた。飽きたぞ俺は。もう少し、ユーモアがほしい。どれだけ時代が進歩して、未知の領域がもう普通の人に消費されつくしたとしても、、ほんのちよつとでも、退行がしたい、、、どれ、、、「知識は想像力より重要で：想像力は：限られて：いて：知識は：世界を：取り囲んで：いく：アッイン・シュタイン」、、、おお。こっちの方が、なんだかその通りって感じで、、その通りだ。あれ？ それでいいのか？

ある人

あのね。だから、謝りたいことがあるの。ごめんなさい。「」とあなたは、一緒にはいられない。だからね？ 「」、先に進みます。いや、前に進みます。前に前に、もっと前に。今よりもずっとずっと、あなたよりも、前。あなたの知らないような、それこそ、何億年も、前の過去に。

待ち人

「まもなく、間もなく、それが起こる——」

ある人

あ、待って！ 走って追いかけた。

ゴミ廃棄人

書く。「あ、待って、、、、待って、待って、、、、おい、待て！ お前の名前はなんだ！ 追いかける。」

空間に残された、ダニ。うごめくことさえない。
ただ、ひかりが目の前に来るのを待っている。

さげび

待って、待って、wait wait attendre Warten manere atendu 대기
kali wag' čekaj' ٢٢٤ ٢٢٤

出てくる。ひ、ひひ、、、ひっひっひ、、、ひ——ひとり、一人、独り、、、
独りの掛け軸は粉々 シャイ的な貴婦人が道徳でジャンパーにレンタカー 刺
身 髪には弾道 そうすればしみみそ汁電球が砂漠。ポップでリゾームが
細胞の乱、わんぱく相撲 ヨーグルトの帯のゴーストスピーカー 衛生上線香
の味でロバ 場 馬 罵詈雑造船場 常にカーテン百合千里焼きそば。コップ一
杯の歯 医者 落ち込むゴミこれで小学校 黄昏の湖畔が美味いので地方球場
で洞窟探検、タン、、、タン、、、短樂的な短小的な淡々的な、段々的な男性的
な、断崖的な！、、、独立宣言独立宣言独立宣言独立宣言！！！！

追いかけていく。後をつけていく。

— 07

廃人 1

ただうなだれたままいる

廃人 2

ただうなだれたままいる

廃人 3

ただうなだれたままいる

廃人 4

ただうなだれたままいる

廃人 5

ただうなだれたまま運ばれてくる

廃人 6

ただうなだれたまま運ばれてくる

廃人 7

ただうなだれたまま運ばれてくる

廃人 8

ただうなだれたまま運ばれてくる

廃人 9

ただうなだれたまま 運ばれて くる

廃人 n

そうかもしれない ないかもしれない ないかもしれない ないかもしれない

廃人 n

こ、こ、こちとら かみで は、は、はいいいいいいいいいいいいいい

廃人 n

さ、さ、さささサイコー――――――――――

廃人 n

さ、さ、さいこう、さいだいの、幸福

廃人 n

おい、まだまだ だな！

廃人 n

だがもうすぐ だ

廃人 n

もうすぐ もうすぐ

廃人 n

もうすぐで、もうすぐがもう、もう

廃人 n

おい！

廃人 n

おい！

廃人 n

おい！

廃人 n

誰か、くる

持つ人

ある人を探している。
転がっている廃人に躓き、倒れる。そのまま。

せいき

うー。うー。うー。うー。ひとり、歩きながら。断崖の方へ。

驚鼻

せいきやーい……

櫓葱

せいきやーい……

硝子

せいきやーい……

蝸牛

せいき やーい……

せいき

怯えている。うう……そして、身を投げるように、断崖へ、

正しい人

馬鹿野郎！ せいきを救ってしまふ。

せいぎ

うーう！ うーう！ ううううーう！！！！

正しい人

お前、消えたいのか！！！！

せいぎ

うっ、うっ、うっ、うっ、うっ、

正しい人

、、ああ、悪かった。悪かったよ。君は独りじゃない、独りじゃない、、、そうだろう？ 私もいる。きっと君を、せいぎを探している人もいるはずだ。、、確かにこの世界が君にとって生きづらいのはわかるさ。せいぎはこれまでのように権威が振るえなくなった。そうだろう？ 今はそういう時代だ。時代が君を置いていこうとしている。しかし極端なのはいけない。君がいなくなってしまうたら、今度は別の偶像がこの世界で権威をふるう。そいつがなんなのか？ いや、そんなのは今大事じゃないし、まだ生まれてもない。第一、そんなものない。何が言いたいって、バランス、、バランスが理想なんだよ。そのためなら私は君を拘束してでもこの世界にとどめよう、、、

せいぎ

、、。

正しい人

わかってくれてなによりだよ。さ、行こう。ここにはまた断崖の魅惑に取り憑かれてしまいかねない。隣の芝は青くみえるものだよ。その青さは毒入りとしらないだけでね。

せいぎ

言葉を失ってしまったまま、連れていかれる。

蝸牛

、、あ。ぶつかりそうになる。

正しい人

ああ、すまないね。よける、でていく。

蝸牛

あ、あの。

もういない。

ひ ひとを、さがして、いるんです けど、
いない。

せ、せいぎー。い いない、のー。？

持つ人の近くまで来た

持つ人 あ、、、あ、ああ、、、起き上がる。あなたも、人探しですか？

蝸牛 ひっ、、、

持つ人 ご、ごめんなさい、と、突然声をかけてしまって、

蝸牛 、、、だ だれですか、

持つ人 あ、、、私／僕も、人を探してるんです。

蝸牛 、、、そ そうですか、

持つ人 えと、、、そちらも、誰か、探しているんですか？

蝸牛 はしって いくように にげた

持つ人 あ、ちよつと、！

檜葱 おまえ、なにしてんの？

驚鼻 なんで、はなしかけてんの？

硝子 おまえ、だれなの？

持つ人 え、ちょ、ちよつと、

檜葱 おまえ、なにさま？

驚鼻 おまえ、あの子のこと

硝子 おまえ、ねらってるの？

持つ人 なんだ、なんだよ、あんたたち、

硝子 括るなよ

驚鼻 そうだ、括るな

檜葱 それぞれ、別の存在だというのに

硝子 おまえの、一存で

驚鼻 個性を、消すな

持つ人 そ、そんなことまでは言っていない、

硝子 言ってなくても

驚鼻 相手にはそう伝わることもある

檜葱 おまえの、思い込みが

硝子 何の気のない発言が

驚鼻 波紋のように、

檜葱 うねりゆく雲のように、

硝子 精緻な蜘蛛の巣のように、

驚鼻 とどいていく

檜葱 つながっていく

硝子 おまえが生きているのは、そういう世界だ。

持つ人 そ、そんなのは一面だ、ここじゃあ、つながりたくてもつながらないことばかりだ、

檜葱 これ以上何を望む？

驚鼻 今以上に、何を望む？

硝子 おまえが望んでいるものは、本当におまえの手に余るのか？

持つ人 、、、、じゃあ、この狭い空間で、踊っているしかないって言うのか？ この閉じた空間で、どこにも行けず、仮初めのつながりだけで、踊って、踊って、踊って、、、、その先はどうなる？ 未来は？ この億劫とした今は、どこへ向かう？

檜葱 、、、、

驚鼻 、、、、

硝子 、、、、

持つ人 黙るだけかよ！

櫓葱　　…、冗談だよ。

鷺鼻　　ああ、冗談だ。ユーモアさ。

硝子　　はー、まじだりー、ユーモアも通じねーのかよー

櫓葱　　そうだぞ、頭が固いんじゃないか？

持つ人　　は…、はは、ははは、

櫓葱　　どうも、はじめまして。こっちは櫓葱だ。それから、

鷺鼻　　吾輩、鷺鼻。で、

硝子　　ウチは硝子ー。

鷺鼻　　あんた、さっきはこっちの蝸牛が悪かったね。あの子、聴覚が鋭いんだ。

持つ人　　そ、そっか。それは、悪いことをしたかな。

櫓葱　　まああんまり、気にしないでほしいなあ。

硝子　　あんたの気持ちもわからなくないってゆーか。ただちょっと…、

持つ人　　ちょっと。

櫓葱　　ちよつと、配慮が足りなかったかな。H○人いて、H○人ともにおんなじ関わり方

ができるはず、ないだろう？

…、ああ、そう、かもですね、

ところでアンタ、せいぎっての、しらない？

せいぎ…、？

鷺鼻　　ああ。蝸牛もそいつを探していた。迷子でね。吾輩の鼻でもかぎ取れない。

硝子　　ウチの目でも。

櫓葱　　こっちの手足でも、みつけれないのさ。

硝子　　ねーしらないー？この辺りにいると思うんだけどー。

…、あ。そういえばその名前、さっき聞いた気がする、

櫓葱　　本当かい！？それは、どこで、

持つ人　　あっちの方に、向かっていったよ。

鷺鼻　　せいきは、ひとりだったのか、？

持つ人　　多分…、わからない、あの時は、ちょっと頭がぼうっとしてたから、

櫓葱

…、行こう。

鷺鼻

うむ、

硝子

そだねー

持つ人

あ…、まって！ …、あの、私／僕も、人を探してて…。

鷺鼻

ほう。

櫓葱

なんだ、それを先に言いなよ。

持つ人

ある…、あの、えっと…、ハハ。なんて言ったらいいかな…、あの。ある、人を探してて…、えっと…、特徴としては…、望遠鏡を、持っていて、それで、よくわからない、言葉をしゃべります、あの、それでも、伝わるっていうか、わかるっていうか、私／僕には、その…、えっと、あとは…、未来人、です。

持つ人以外、誰もいなくなっている。

この人とは、次元が異なっている。

断層がある。

みえる形でしか、表現のしようはない。

虹色で、灰色で、円状で、直線で、平行線の境界線、点は線に、線は形に、形はやがて、断層となる。

断層は、

あったし、

あるし、

あるだろう。

持つ人、それでも 尚

断層を越えようとしている。

持つ人

覚えてる？ ああ、うん。あなたに言ってる。あの日、、、別に語る必要もないような、比べようのない当たり前のあの日。唐突に警鐘が私／僕らの前で テレビで、インターネットで、スマートフォンで、ありとあらゆる画面に流れ始めて、でもさ、、、誰もみ向きもしなかったよね。レコードを、いたずらに回す。

待ち人

「まもなく、間もなく、、、」

持つ人

誰も、信じなかったよね。

待ち人

「間もなく、まもなく、それが起こることを、」

持つ人

これじゃあ、ダメなんだよ。

待ち人

「知っている。」

持つ人

：あなたのこと、信じていたい。つながっていたい。つながっているには、信じてなきゃいけない。信じてれば、このつながりは成立する。観測者が、たとえ何億年前に消えているかもしれない星のことも、今そこにあると信じれば、その星の瞬きとだって交信できる。
あなたの生きている、未来は どうなっているんだろう。
私／僕は、あなたがいるって、そこにいてくれるって、信じていたいよ。

ある人の望遠鏡が、目の前に。

持つ人

望遠鏡を覗いている。

するとみえてくるのは、人体である。廃人たち、持つ人、あるいは、あなた。……、あなたの、脳がみえる。脳にも、隙間がある。NOナノメートルのわずかな隙間は、確かに無視できるような隙間かもしれない。けれど、離れている。離れているんだよ。

そこには、海が広がっている。脳の海、月の海、宇宙の海。脳脊髄液と言われるそれは、すこし、しょっぱい。母の味かもしれない。あなたたち、例外なく母から生まれている。母の母の母の母の母の母のハハ、祖先は、海からやってきている。では、言葉はどこからやってきたんだろう。孤独な言葉は、元は一つだったんだろうか。

あの海でなら、言葉は、聞こえるだろうか。どうだろうか。

あの海でなら、ひとつに――。

死んだら、行けるかな。魂だけになったら、

行けないよ。ひかりを抱えている。

正しい人

持つ人

：どうしてですか？

正しい人

魂や幽霊にだって、質量があるんだ。4分のωオンス、つまり21グラム。

持つ人

それは嘘だと証明されたはずじゃ。

正しい人

残念ながらそれが世界の真実だ。まだ発見していないだけ。この世界で質量がないのはひかりだけだよ。というより、質量をなくしたら、ひかりになってしまっただけだよ。

ひかり、傍らで、舞い始める。

持つ人

眩しい……

正しい人

……、君は、この世界が良く隔々までしれるようになったと思うか？

持つ人

え、？

正しい人

これだけ広がった世界でも、境界がみえてきたこの世でも、こうしてひかりの角度をかえれば、まだまだしらなかったことが出てくる……

廃人たち、ひかりのまたたきに立ち上がりだす。

ゴミ廃棄人が、こっそり麻の紙を配り始めた。

持つ人

…、クラブは、もうしってます。興味もないです。

正しい人

これが、本当のクラブだと思ってる？

持つ人

え？

正しい人

この盛り上がりは、本当にクラブだけのもの？

ひかりが軽々しく、空間を包み

おとが軽々しく、空間を包み

わすれていくように 踊っていく 廃人たち

まるで廃人のようではない

彼／彼女らは 麻の紙の言葉を読み上げていく 詠っていく

そして、食べる

ハイになっていく

そして、お互い 近くなる

もはや身体は関係ない 言葉も飲み込んだ

究極の恥じらいを乗り越え 互いはもつとも接近する

キスや性交を超えて

ひとつに なっていく

正しい人

みえたか？ ここでは、あれが流行している。

持つ人

あれって、何ですか…。

正しい人

あの紙は何だと思う？

持つ人

望遠鏡で、よくのぞき込む。

正しい人

とぼけるなよ、おまえはわかって使ったはずだ。

持つ人

…

正しい人

あれは、麻だ。麻の紙。

持つ人

…

正しい人

よく思い出すんだ。あの紙は、

持つ人

…、言葉が、書いてある。

鐘の音が鳴った

鐘の音が鳴った

鐘の音が鳴った

鐘の音が鳴った

鐘の音が鳴った

鐘の音が鳴った

鐘の音が鳴った なんだか

誰か

が、さげんだ。

廃人たちの一体の中に、十字の木の板が立ち上がる

その磔の為の十字架には 誰もいない ただオレンジに血まみれである
変質者は いない

十字架の足元には、ω体の歪な肉塊が転がっている

まるで 絵画のようである

それぞれ 硝子 鷺鼻 櫓葱 だったもの

さっきまで、確実に そこにいた けれど

生きているのか 死んでいるのかもわからない

ただ さげんでいるように みえる

廃人たち

は、さげび さげばれ 伝播していき
四方八方、散り散りに 捌けていった

正しい人

待て！ お前ら！ 追いかけていく。

持つ人

望遠鏡を覗いたまま

言葉、、、言葉は、生まれて、消えていく、、、掴むことなど、できない、
なんて、さげんでる？ なんて、言ってる、？

、、、これは、いつのできごとだ、、、？

過去か？ 未来か？ それとも、今か？

ひかりがどこかへ行ってしまった。もうみえない。

持つ人、倒れている。倒れたふり 潰れたふりをしている。

ゴミ廃棄人

言葉を変わず探している。さっきまでそこにあつたあの肉塊たちの付近に
は、確かにさげびの残滓が残っているようにみえる。へへ、、、言葉を書こうと
して 既に麻の紙がないことに気がついてしまった

おお、、、おお、、、紙が、、、ない、、、

紙がないぞ！ おい！ おい！！ くそお、これじゃあ書けねえじゃねえか！

どうすればいいんだ？ どうやって、残せばいいんだ？
：言葉は確かにここにあるのに、、、のこ、残すことが できない！
これじゃあ、薄れて廃れて、跡形もなくなっちゃう！
どうすればいい？ どうすればいいんだ！
、、、おい！ 教えてくれ！ 俺は独りじゃ生きれないんだ！
、、、あいつら、、、勝手に死にやがって、、、俺の仕事を奪いやがって、、、
俺を独りにしやがって、、、！ 殺してやる！！！！

さげび

血まみれで出てくる。蝸牛を抱えている。

ゴミ廃棄人

う、、、うわあああああ！ お、おまえ、、、う、うわあああああああ
あ！
逃げていく。

さげび

肉塊のさげびの 残滓のあたりに、行く。そして、残滓を 食べる。
、、、哀れな、恐怖。
なんとも、哀れな この恐怖は、未だ水底をしらない
このまますることもないのだろう
壊れることばに 勇気を持ってよ
崩れるからだに 高らかな、雄叫びを放てよ
どうせできやしないのだろうか？
哀れだ 哀れ
哀れな、恐怖
この心は むごき死をもともしない
計りしれない、那由他の彼方のような
化け物にだって 向き合えるような
だから
お前は 卑怯だ

持つ人に向かって。持つ人は 死んだふり をしている。

さげび

最後はお前を食べよう お前らを食べよう 食べられてしまえ 味のないまな
ざしたち いや、、、そもそもお前らは、もうこの胃袋の中かもしれない 大き
な大きな、一体化の中に取り込まれた 植民地の奴隷 個性程度では、大した
意味を持たない ただ、みているだけしかできない お前ら まなざしたち

正しい人

…、お前、何をしている…？ 血まみれなのをみて まさか、お前、

さけび

抱えている、蝸牛を、置き 去っていく。逃げるようにはではない。

正しい人

おい！ どこに行く！

蝸牛

おきる え、え、な、なに、なに いや やめて、

正しい人

…、おっと、すまない。大丈夫か、君は、

蝸牛

いや、いや、いや、いや、

正しい人

…きつと、大変な目にあっただらう。大丈夫、そっとしておいてあげる。

私などが、君にできることなどないからね、

蝸牛

え、いや、うそ、まって、

正しい人

その代わり、あいつを必ず捕まえて、とちめて、さらして、強い言葉でまみれさせて、服の下だけズタズタにしてやる。間接的に、間接的に、間接的に、大丈夫、君は何もしなくていい、みんな共感してくれる、だからやる、大丈夫、君のためにするってだけじゃない、これは私が許せないからやるんだ。私も私の意見を言えるんだ。あいつを、許さない。つるし上げる。あいつの情けないほえ面をみるまで、謝ってもやめるものか。

蝸牛

まって、まって、まって！

正しい人

…、なんてね、冗談だよ。

蝸牛

…、ほん とう？

正しい人

ああ、本当だ

蝸牛

ほんとう に、ほん とう ？

正しい人

そんなこと、冗談じゃなきゃ言わないよ。人の目の前でね。

蝸牛

でも でも でも…、わたしには、あなたの 言葉しか、わからない

正しい人

…ああ、目がみえていないのか。大丈夫、大丈夫だよ。何も片手に包丁を持つてるわけでもない。

片手に、拳銃を出している。もちろん 偽物である。

蝸牛

そっ…、か…、そう なの ね、

正しい人

ああ。これは、君を落ち着かせるための、ユーモアだよ。ちょっと、心臓に悪かったかな。

蝸牛

…、いや、えっと、その…、ありがとう、

正しい人 どういたしまして。

蝸牛 …、ねえ、ね、みんなのこと、しらない？ で、すか？

正しい人 みんな…？ さあ、わからないな。ここでは、残酷なことがあったんだ。その時、どこか散り散りに逃げてしまったかもしれない。

蝸牛 そ、そ、つか、あの、あのね、

正しい人 うん、なんだい。

蝸牛 しよ、しょうこ ちゃんは、ね、けっこう、つ、つめたく、みえる、けど、でも、でも、でも、ね、まず、まっさきに、わたし、わたし、が、へんなほう、いっちゃう、と、わたし、の、うで、つ、つかんでくれるん、だよ、うん。

正しい人 わ、わしは、な、さん、も、いつも、やえいして、きつと、ぜったい、なん

にちもから、だ、を、あらって、なくて、において、きつい、とおもう、の、に、なにもいわなくて

正しい人 うん。貧乏ゆすりは音がない。

蝸牛 やぐ、ら、ねぎ、さんも、も、いつも、わ、わたしの、こと、きにかけて、よく、せおったり、してくれてた、ぜったい、おもい、の、に、

正しい人 素晴らしい！ 拍手していた。

蝸牛 え、え…、？

正しい人 すまない。さつき君に、その方たちが逃げてしまったんじゃないか、と言ってしまった。そんなはずない。そんな素晴らしい方たちなら、必ず君を探して、みつかるだろう。

蝸牛 そ、そう、かな、

正しい人 ああ。だから、君は待ってるだけでいい。去っていった。

蝸牛 ありが、とう、あ、あと、ね、せいぎ、って、子も、いるんだけど、…、え？

持つ人 ふりのまま。もしかして、君、蝸牛？

蝸牛 ひっ、だ、だれ、やめて、さわらない、で、

持つ人

大丈夫、、、さわらない、触ってないよ 潰れたふりしてる、から、

蝸牛

し しんだ、ふり？

持つ人

そう、そう、、、潰れたふり。ねえ、君、蝸牛？

蝸牛

そう、だけど

持つ人

他の、、、鷲鼻や櫓葱や、硝子たち 探してるの？

蝸牛

しってる、の？

持つ人

君は、しらないのか？

蝸牛

なにを、、、

持つ人

——みんな、向こうの方に向かったよ。

蝸牛

え でも、

持つ人

むこうに、いってしまったんだ。

蝸牛

そ そ、か そう だよね、

持つ人

うん。だから——

、、、なんていえば いいのか。追いかける？ それとも、ひとりで生きろ？
なんだ、幽霊を追いかけてもいいのか？ この世の果てまで行っても存在
していないのに？ あるいは、ひとりで強くなってもらう？ なんの立場でそ

んなこと言えるんだ。責任は？ とれるのか？

どちらも、残酷だ。そもそもこの子には、しる 権利がある。

硝子も、鷺鼻も、櫓葱も、肉塊になってしまったこと さげんでいたこと

その意味を、理解できなかった こと

この子は しる 必要がある。しらなくては しらなくては しらなくては

あの

あ、、、はい、

わたし いきますね、

あ、、、どこに、

さよう なら

。。。潰れたふりの、まま。

蝸牛

持つ人

蝸牛

持つ人

蝸牛

持つ人

— 10

ひかりが入ってくる。舞っている。廃人たちが、ひかりの周りで踊っている。

ゴミ廃棄人

後ろを追いかけている。時折、廃人たちとつながろうとするが、もう、相手にされない。

正しい人

おまえが麻の紙を渡していたのか？

ゴミ廃棄人

、、、お、俺は、俺の、俺の、仕事、英雄の、

正しい人

おいホームレス。おまえが、麻の紙を、渡していたのか？

ゴミ廃棄人

う、うるせえ！ だから何だってんだ！ もう1枚も持ってねえよ！

正しい人

写真を大量に撮り始める。

ゴミ廃棄人

ひい！、お、おい、お前、おい！ や、やめ、な、なんでそんなこと、するんだ

正しい人

みつかんないと思ってるんだろ。

ゴミ廃棄人

、は？

正しい人

哀れだと思うよ。おまえ。。。。なあおまえ、なんで麻の紙を持ってたんだ？

ゴミ廃棄人

正しい人

は、、そ、そりやおまえ、捨てられるだけの、言葉を書いてたんだよ。どうして。それが何の役に立つ。

ゴミ廃棄人

正しい人

こ、言葉を残すことで、れ、歴史が、残せる、歴史を残してどうする？ ましてや捨てられるはずだったんだろ？

ゴミ廃棄人

正しい人

そ、それは、、歴史を、繰り返さないために、それで歴史を繰り返さなかった試しがあるか？

ゴミ廃棄人

正しい人

それはやってみないとわからないだろう！？

傲慢だよそれは。歴史を残す側の。正確に残るわけでもないのに。残るべくして残るものを、残していくべきだろ。お前は何かを残せる立場か？ 残るべきものを埋もれさせていないか？ なんでもかんでも残したところでどうする。埋もれた情報の中で、しるべき人がしるべき情報をしれなくなったらどうする。本当に大事なものは、自然淘汰されて残るんだよ。歴史とは過去と現在の尽きることのない対話だが、おまえのしていることは一方的な加虐だ。凌辱だ。絶対的、暴力だ。

ゴミ廃棄人

お、、お前こそ、傲慢じゃないか！ それじゃあ、み捨てられるべき人は、み、み捨てるべきだと言っているみたいだ、、ふ、ふざけやがって！ 殴らない！

正しい人

おまえは弱い。それは決して優しさじゃない。いいか。人を助けることは多かれ少なかれ傲慢なんだよ。目の前で助けられる人ならまだしも、目の前でもない、しりもしない誰かを救うために何かをすることは、同時に目の前でもない、しりもしない誰かを救わないということでもあるんだよ。弱くて救う人と、弱くても救わない人を選び分けているんだよ。ましておまえが？ 誰かを助けられるかもしれないのに、こぶしをふるうことすらできない、おまえが！？ それは優しさじゃない。弱さだ。言葉を誰にでも届けられるようになって、力を持ったとでも勘違いしたか？ 思い違いも、甚だしいな。

ゴミ廃棄人

じゃあ、じゃあ、じゃあ、、お、お、俺は、どうしたらよかったんだ、、お、俺はただ、自分の、自分の、仕事をしていただけで、

正しい人

さあ、私に聞くなよ。少しは自分で考えて、自分で判断したらどうだ？ お前みたいな勘違い野郎は一瞬話題になるくらいだろうが、私はもっと最低な最高な奴を探してるんだ。

ゴミ廃棄人

、、自分で、、自分で、、う、うわあああああああああああ！

正しい人を殴った。殴り続けた。正しい人は何も反応しないが、気にせず殴った。

これで、、、これで、俺は英雄、、、

正しい人

立ち上がる。

ゴミ廃棄人

、、、え。

正しい人

馬鹿だな。こんなところにリアルにいるわけないだろう？

ゴミ廃棄人

：そんな。

正しい人

いくら歴史を残したところで、おまえは独りだぞ。

ゴミ廃棄人

そんなわけ、ない！！！ 殴る。

正しい人

しかし、無傷。いいや。おまえは独りだ。それでもいいなら、そのむなしさを、その絶望を、その不可能さを飲み込めるといふなら、続けるといい。だがな、歴史家も為政者も頑張っている。その頑張りをおまえはわかった気でのうだけだ。

ゴミ廃棄人

、、、嘘だ、、、嘘だ、、、

正しい人

そんな人に判断されたいなら選択させてやる。拳銃を、構えた。

ゴミ廃棄人

ひ、ひいいい！

ゴミ廃棄人

ひとつは元の仕事に、戻ることだ。どうだ？ もうあの群衆は戻れないかもしれないが、おまえはまだ、戻れるぞ。もしくは、このまま、書き続けて、残し続けて、歴史の犯罪者になる。それでもいいと思うぞ、私は。どうせここまで歴史だって、ぐっちゃぐちゃのどろどろの、ぼんぼこぴーのぼんぼこぴーだ。

ゴミ廃棄人

、、、え、

正しい人

ほら。好きな方を選べよ。拳銃の撃鉄を起こす。

ゴミ廃棄人

ま、、、待ってくれよ、は、話をしよう、

正しい人

ほら、早くしろよ。選べよ。遊びは、もう終わりが近いんだから。

ゴミ廃棄人

わ、わかった！ わかった、、、も、元に戻る、、、廃棄を、続ける、続けるよ、、、

正しい人

ふーん。じゃあおしまいだね。引き金を引く。もちろん、偽物。空の音。群衆となっている廃人たちの方へ向かう。

ハイ！ 今日はおしまい！！ もう言葉はないよ！ 売り切れだ。

廃人たち

ブーイング。嘘つけ！ フィクションだ！

正しい人

ああ、フィクションだ。それで何が悪い。フィクションだが、お前らにやる言葉はもうないというだけだ。欲張るな！

廃人たち

しゅしゅ、去っていく。

正しい人

その背中に向けて、発砲。何人か、倒れた。しかし廃人たちは気づかない。ゴミ廃棄人は、とうとう、逃げ去った。

…、おい！ 誰か、誰かが撃たれたぞ！ おい！ 誰か！ 走り去る。

再び日陰となった場末。言葉を交わす、廃人たち。

廃人1

…、なあ、

廃人2

うつぶせたまま。

廃人1

なあって！

廃人3

ダメだよそいつ。もうつぶれきっちゃったよ。

廃人2

そんなことは、ないよ。

廃人1

なあ、お前、さっきの会話聞いたか？

廃人3

さっきって、どこからどこまでのさっきだい。

廃人2

わかん、ないな。

廃人1

あいつらの会話だよ！ ほら。麻の紙がどうか。

廃人2

あーあーあーあー！ さけぶ。

廃人3

うわあ！

廃人4

なんだいうるさいなあんたら。

廃人1

一緒にするな、！

廃人3

…、おいおい。やっこさん、また伸びちまったみたいだぜ。

廃人1

なあ、だめだ、もう音には反応しないじゃないか。

廃人3

ひかりがないとなあ。もうそれにしか反応できない。

廃人1

ダニめ、…

廃人4 …、なあ、この会話、前にもしなかったかい？

廃人1 あ？ んなわけねえだろ。おい。それより、さっきの会話聞いたか？

廃人3 だから、さっきって、どこからどこまでのさっきだい。

廃人4 あれだろう？ 麻の紙の話。

廃人1 ああそうだ！ そうだ！ 麻の紙だ。

廃人4 それがどうしたんだい。

廃人1 …、あの、俺らが食べてた、紙の話だ。

廃人4 ああ、麻の紙って話だ。

廃人3 ん、おい待て、ってことは、何かい。俺が食べてたのは、麻の紙って、ことかい！

廃人4 ああ、そうだと言ってるだろ！

廃人3 ってことは、ってことは何かい！？ 俺は、大麻を、食べてた、ってことかい！

廃人1 そうだよ！ うるせえ！ 俺が言いたかったことを横取りすんじゃねえ！

廃人3 ええ！？ ええ！？ じゃあ俺とあんたとあんたとあんたは、何かい、麻薬中毒ってことかい！？

廃人4 それだよ！ あたしが気になってんのは。あたしらは、あの麻の紙を食べる前から、もうすでにこんなになってなかったかい？？

廃人3 え、え、そりゃあんた、確かにそうだったかもしんねえ。こうやって、あんたらと話した記憶がー、あるような、ないような、

廃人1 一緒にするな、！

廃人3 え、…、あんさんは、その記憶、ないのかい？

廃人1 うるせえ！！！！、

廃人4 やめときな。相手にするだけ無駄だよ。こいつはたぶん、あたしのあやふやな記憶から言わせれば、麻の紙を食べる前からこうだった。

廃人3 …、じゃあ、やっぱり、

廃人4 ああ。あんたもあたしも、そいつもこいつも、なにも麻の紙でハイになってたわけじゃないのさ。

廃人2 それじゃあ、なにで。

廃人3 おお！ あんた、生きてたのか。

廃人4 そんなの、決まってるでしょーが、、、言葉だよ。

廃人3 言葉あ、、、？ 言葉ってえ、あんさん、あの、言葉か？

廃人4 そうだよ。この、言葉さ。

廃人3 この言葉ってのは、この、今、まさに今！ 使ってること言葉か？

廃人4 ああ。だがちよつと違う。この言葉じゃない。こんな何の意味も持たないような、薄っぺらい幕のような会話言葉じゃない。もっと純粹で、もっと強い、もっともつと、血と油のにおいがする、弾丸のような硬さの、言葉だ。扱いを間違えれば、物事を排他し、傷つけてしまうような、な。

廃人3 ほあー、、、それは、また。難しいな。

廃人2 、、、例えば、、、？

廃人4 そりやまず、なによりも、あんたもあたしも、そいつもこいつも、なにで一番ハイになった？

廃人3 そりやあんた。えーと、えーと、あれだよ、あれ、、、あれ、なんだっけ、、、はじめて、麻の紙を食べる、直前だ、あの、黒い熱狂の渦の中で、俺たちや、最高にヒートアップしていたあ！

廃人2 、、、檄文？

廃人3 あ、そうだ！ そうだよ！ 独立の、檄文だよ！ あんた！

廃人1 うるせえ！

廃人4 、、、そう。檄文だよ。独立の。あれが、一番純度が高かった。あれは、完全に、排他していた。はねのけていた。ともすれば、誰かを傷つけるような。

廃人2 、、、じゃあまた、独立の檄文を食べれば、ハイになる？

廃人3 おお！ おお！ またああなれるのか！

廃人4 そうさ、、、だが、あんなもの簡単に手に入らない。より純度の高い、この億劫とした抑圧から、この無自覚の罪の牢獄から、出ていこうとしない限り、そんな言葉は生まれないだろうよ。

廃人3 ああ、、、そうか、、、なんでえ、持ち上げられて、落とされた気分だよ。お前、そんなことできるか？ できるはずない、みんなあの夢を見たいのさ。はあ。

廃人1 、、、じゃあ、待てばいい。

廃人2 、、、え？

廃人 1

待ち伏せればいい。ひかりがよぎるのと同じように。この永劫帰帰のような、あるいは平和な毎日のような、この空間を出ていこうとしている奴を待ち伏せればいい。そいつは、必ず独立の檄文を持っている。その逃亡者ダ二のように、何時間でも、何日でも、何年でも、数億年でも。永劫。

廃人 3

…、おお。その手があったか！

廃人 4

あなたにしては、えらくスマートじゃないか。

廃人 1

おい、静かにしろ！ ここにきて、もはや、ただ、待つこと以外、いらねえ。もはや言葉なしでも。俺たちは、お互い、それで分かっている。だろう？俺「たち」は。

そして、静寂がくる。

廃人たちは、ユクスキュルのダニとなり 暗闇の中で待ち伏せるのだ。

— 11

持つ人

…、死んだふりをやめる。…、蝸牛は、いつの間にかどこかへ行ってしまった。目の前のあの子のことすら理解できないのに、数億年先の誰かについて、理解できるのだろうか。

——レコードを、みながら。数億年前の誰かのことなら理解できるのに、目の前のあなたについて理解できないはずない、ない、ない——。ないといいのに。

そして、レコードの回転を 始めた

それは決して、流行りの音楽ではない

待ち人の、警鐘 あるいは 過去である

アルベルト・アインシュタインの、「想像力は知識より重要です。知識は限られていますが、想像力は世界を取り囲んでいます。」が、幾つもの言語に翻訳されながら、リピートされていく。

待ち人の警鐘も 繰り返し 繰り返され、

待ち人

…まもなく、間もなく、だった。まもなく、ということ、こうして間もなく前にしているのは、それは未来予知などではなく、ただ私に、退廃せず考える、余地 が、充分にあったからだ。まもなくそれは、起こるところだった。

そこに、いますか？

ある人

走ってきた。ようやく、みつけた。——いますよ！

持つ人

え、

待ち人

…誰もいない。

ある人

これから いますよ！

持つ人

待って…、こっちをみてよ…、！ なんでそっちばっか！ こっちだって、過去だ！ 忘れられてたまるか、私／僕をしろ！ 僕／私をしろ！ レコードを止めようとする。とまら ない。

待ち人

、こうして、残さないと、いけないと、思っていて。例え誰もいなくても、誰にも届かないと分かっていても、残さないと…、こうして、最期を、残さなくは、もう私には、できることは、ない、

外を 写す。

持つ人

みるな！！！！

ある人

——これが、しりたかった、、過去？

待ち人

なにか、わかりますか。わからないかもしれないし、わかるかもしれない。すごく、平和にみえるかもしれないし、すごく、大変なことが起きているようにみえるかもしれない。あなたのことは、あなたにしかわかりませんよ。でもそれは、、そのあなたの感覚／言葉は、多分正しいし、正しくありません。でも、あなたが間違ってしまったわけではないです。間違ってしまったのは、こちらです。

外の景色は 酷く、平和だった。

ある人

、、本当に、過去？

持つ人

今日は、○年○月○日(あなたの現在の実際)、天気は、○○だよ(あなたの現在の実際)。ねえ、、こっちだって、過去だよ、

待ち人

あー、終わってくな…世界…って、、思ったんですよ、思ってしまったというか、、私たちは、私たちでいられなくなるんだなって、私／たちになっちゃったんだなって、、昨日までつながっていたと思っていた隣人は、しかし、本当はつながってないなくて、、何を考えているかなんて、わかるはずなくてね。
最初は、インターネットでした、、今日、、インターネットは、、なくなったんです。

ある人

これは、、、本当の、、、未来と、何が違うんだろう。

「これは全て、あなたの言語に翻訳された言葉たちです。翻訳した際にこぼれ落ちる、ニュアンスその他、あなたの言語にない表現については、一切の保証をもちません。」

ある人

「」にとつての これから来る 未来にしか、みえない

待つ人

ねえ、、まって。なんて、、なんて言ってるの！？ きこえない、わからない、つたわんないよ！

待ち人

つながりつつながってつながって、つながっていった先で、インターネットは限界を迎えました。でもね、私、思うんですよ。これって、因果応報なんじゃないかなあ。私たち、私／たちになっってしまうほど、キャパシティの限界まで、つながろうとし続けた、結果なんじゃないかって。グローバル化とか、ワールドワイドウェブとか、光通信とか、私／たち、私／たちの身体でいける速度の限界を、超えちゃったんじゃないかって。ハハ。

持つ人

…この人の本当の言葉をしる由は、ない。忘れていた。だって、この人の、この人たちの言葉は、、数億年離れていて、それは、、だから、それを、、翻訳した、翻訳したんだ、、ああ、確かに、絶望しかけながら、、あれは、こたえた。だがそれは、はじめてのことじゃない。これまでも、、幾度も 繰り返してきた。繰り返してきたんだ。これが、悲劇だ。

ある人

過去、現在、未来、それから、、変わらない、、未来、が、みえる、

待ち人

まもなく、間も無くね、こうなることは、わかっていたんだと思います。この、一人の独白はね、、罰です、、この独白が誰にも届かなくなってしまう前に、、ここまで、残酷な日常が訪れてしまう前に、、誰かに、届けるべきだった、、私／たち、、隣人の肉体同士くらいのつながりで良かったのかもしれませんね、、私／たち、、ねえ、あなたは

レコード、ひとりでに途切れた。そして、冒頭に戻る。繰り返す。

持つ人

腕が伸びている。

待ち人

まもなく、だった。

ある人

腕が、伸びていた。

持つ人

あるいは、身体が伸びている。

待ち人

まもなく、間も無く、それはおこるところだった。

ある人

あるいは、身体が伸びていた。

持つ人

もしくは、身体を伸ばしている。

待ち人

まもなく、ということ、こうして間も無く前にしっているのは、それは未来予知などではなく、ただ私に、

ある人

もしくは、身体を伸ばしていた。

持つ人

もしかすると、意識を伸ばしている。

待ち人

ただ「」が、

ある人

もしかすると、意識を伸ばしていた。が、

持つ人

腕は、伸びている。
確かに、伸びていつている。
けれど、その断崖の前で
伸び切って しまった。届くことは ない。

ある人

まもなく、それが 繰り返してきたそれが 起こることを
本当は、知っている。「私」は、知っている。しって

レコードは、役目を終える。待ち人が自ら終えるのだろう。

— 12

持つ人、断崖の向こうの こちら側へ、話しかけてくる。

持つ人

レコードを手に持つ。
覚えてる？ ああ、うん。あなた、に言ってる。あの日、、、別に語る必要もないような、比べようのない当たり前のあの日。唐突に警鐘が私／僕らの前で
テレビで、インターネットで、スマートフォンで、ありとあらゆる画面に流れ
始めて、でもさ、、、誰も——あなたも——み向きも しなかったよね。

こちら側は、ただみつめるしかできない。

持つ人

警鐘が、確かにこの耳に、届いた時、この人がたとえ何億年前の人であろう
が、つい、最近の、地球の裏側の人であろうが、私／僕の声は、届かない、届
かない——って、、、気づいてた？

届かないんだよ。

届かない――

どれだけ一瞬で地球の裏側につながれようと、
どれだけ言葉が、軽くなったとしても、

さらさらと、指の隙間を抜けていく 流れていくんだ、
時間と、ともに、、、そこに潜む、化け物の前に、私／僕たちの力では、逆らう
ことなど、できやしない。

――しないんだ。

波の音が、聞こえてくる――

持つ人

でも、、、いつか。それが、時間が、流れていって。

――はるか彼方、永遠のようなものの向こう側には、、、湖が、あって、
そこに流れ着いた、砂浜の上を、、、
歩いて、みたいかった、、、

いつか――

待ち人

「いつか、ね。」

待ち人は、持つ人の後ろを横切った。断崖に、消えていったようにもみえた。

持つ人

待って！

さげび

待って、待って、wait wait attendre Warten manere atendu 대기
kallī wag' čekaj' ٧٤٢' ٧٤٢'

持つ人

断崖を、そして、本当に
乗り越えようとした。

次の瞬間、廃人たち、あるいはダニたちが日陰から飛び出してくる
おそい かかる

ダニ

今だ！

ダニ

漁れ！

ダニ

こいつが持っているはずだ！

ダニ

独立の、檄文を！

ダニ

今にも吐こうとしているはずだ！

ダニ

独立の！

ダニ

檄文！！！！

ダニ

やっちまえ！

ダニ

そっちを押さえろ！

ダニ

持つてるもん、全部もらっちまえ！

ダニ

漁れ！

ダニ

食い漁れ！

ダニ

持つてるはずだ！

ダニ

吐かせろ！

ダニ

はなさせろ！

ダニ

持つてるものを！

ダニ

独り占めさせるな！

ダニ

吐かせる前に！

ダニ

離させろ！

ダニ

独立させるな！

ダニ

宣言させるな！

ダニ

檄文をいただけ！

ダニ

残されるものなど気にするな！

ダニ

独立させるな！

ダニ

独立させるな！！

ダニ

独立させるな！！！！

ダニ

我々が！

ダニたち

独立するために！！！！！！

持つ人

やめろ！ やめてくれ！！ そんなもの、持ってない！！！！
やめろ！！！！！！

無言 注視 集中

暴力が、集中

まなざしの、暴力

止むことなく、みつめる

暗転

— 13

レコードは 回っていない。

待ち人

「本当は、私たち、つながるべきじゃない。…ああ、私たち、なんて言ってしまった。括ってしまった。こんなにも、私／たち、違っているのね。…あなた私の言葉が分からなくて、それで、絶望するかもしれない。これから先、例え死んだ後ですら、しることもないかもしれない。けれど、だからこれは、私／たちの、ささいな、ささやかな、世界への反抗のようで、ただの屈服で、だから、反抗のだけれど。なにか、いつか、どうか、なんらかの、形で、この言葉が、届いていたってこと、しってほしいな。私／たち、私たちが、つながっていないくて、つながっていられた。…これって、古いかな？」

ある人

それから、、、出会うことはないだろう。なかっただろう。そのことは、あなたが一番よく知っている。あなたと、「」は、そもそも出会うべきじゃなかった。つながるべきじゃなかった。：わかってたのにな。

あなたとつながったことで 未来が確定してしまった。

そう、、、インターネットがなくなって、争いが起こって、、、文明が減んで、人類は大きな大きな、、、生涯かけても、隣人のことしかすることができないよ
うな、、、分断に直面する。

それが「」の 未来。すべては、あなたと「」が引き起こしたんだ。

待ち人

「、、、なく、だった。、、、間も無く、、、まもなく、、、だった、、、。それは、、、と
ころ、、、だった、、、。なく、、、なく、、、。」

ある人

すべては、「」と、あなたが、引き起こす——。

待ち人

「：そろそろ、、、ここを去ります、、、その前に、、、最期に、言葉を残していきます、、、ああ、そうだな なんて言おうかな、、、。：皮肉かな、、、誰にも届いていないと分かりながら語りかける、言葉は、、、なんだか 生まれ落ちてから、
過ごしてきた時間の中で、一番 軽いな：

いいかい、あなたは」

待ち人、途切れる。以降姿を表すことはない。

ある人

：それでも、言葉は、軽くなって。
なによりも、ひかりよりも、、、軽くなって——余計な情報を削ぎ落として、空
っぽになってまで、ただ、時間を超えて。届いた先で、なんのことなのか、あ
なたには伝わらない。きつと。
けれど、それでも、、、言葉は、誰かや、あなたと、つながるために、、、その身
を削ってでも、、、進んでいく。

あなたと「」は、出会ってない。出会わないまま、空虚な言葉で、つながる。つながる つながるよ、

この先で――

きつと――

再び、薄暗い闇。

ここでは、全体をみ渡すことはできない。

どこまで世界が広がっているか、誰も知らない。

そもそも世界がいくつあるのか それすら知らない。

ここでは、うごめくものが 無数にいる。

ユクスキュルのダニかもしれないし そうでないかもしれない

皆 独りである

ただ それぞれ、それぞれの 原始的なひかり

それは とおく を 照らさない

そんなひかりを、もって

時折、それらは交錯する。

そのたび、何らかの コミュニケーションが起こる

しかし、互いに方法が異なるので、そもそもコミュニケーションが取れない

それでもしばしば、やり取りが成立する。

その時の感動は、あまりに豊かである。

つながりは、生まれるものである。

そしてその感動を味わった二人は、再び独りに戻り
暗闇に、消える。

暗闇に

変質者

暗闇の中、持っていた人にひかりを向ける。
あなた、ここに在るべき人じゃないですね。

持っていた人

倒れたままである。

変質者

ここに在るのは、器官なき身体の者だけです。
あなたは、まだ、持っている。

持っていた人

持っていないです。すべて、奪われました。

変質者

いいえ。まだあるじゃないですか。
私をごらんなさい。もう ない。
第一、あなたと私は、最初から会話できてしまっている。

持っていた人

あなた、誰ですか？ 男？ 女？

変質者

そういうの、気にするタイプなんですか？

持っていた人

いや、、、気にしない方でした。そう思っていました。

変質者

そうですか
…、じゃあ、あなたにカミングアウトします。

持っていた人

なにを、

変質者

私、せいきを失っています。

持っていた人

そうなんです、か

変質者

驚かないんですか？

持っていた人

今時、めずらしくないですよ。

変質者

そうですか。そうかも、しれないですね。
わたしは、でも、失われたのです。

持っていた人

…、どうして、

変質者

やはり、中身と外見を、一致させなければ、おかしかったのでしょうか。周囲の人からしたら。私は生まれつき、性別がなかったですから。

持っていた人

そんな。

変質者

ああ、悲しまないで。それは、もうだいぶ前のことです。
案の定、私の身体は引き裂かれてしまった。ところで、からだが、私からすれば、それでは一致しなかったのです。中身と、外見。

持っていた人

それで、どうなって、

変質者

私は、ばらばらになりました。私の部位は、独立しました。それぞれが自我を持ち、世界観を持ち、反発し、いがみ合う。それはでも、消えることのないつながりでもありました。私という輪郭の中で、決して離れ離れになることのない。

だから、希望は失われていないと思えたのです。元の身体に戻るのに。私は、失われたせいきを探しに、旅に出ました。

持っていた人

みつかったんです、か？

変質者

はは。この有様ですよ？ 私。

まあ、やはり。そううまくはいかなかった。

一度失ってしまったものは、もう戻ってこない。長い時間か、文明が減びない限り、それは簡単なことではありません。

それどころか、私は、本当に引き裂かれ、唯一のつながりたちさえ、失いました。

持っていた人

それは、

変質者

悲劇ではないです。

持っていた人

え、

変質者

部分を、器官を、つながりの意味を失って、ようやく独りになりました。

どうやら私、これを求めていたみたいです。

誰からも測られることなく、衝動のままに生きられる。

時折こうして誰かと出会っても、すぐに切断できる。

これくらいが、よかったですよ。

それにここは、海が近い。

持っていた人

海、――

変質者

あなたも、いつかはここに来るでしょう。けれど、まだ、今じゃない。ほら、早く行きなさい、ぐずぐずしていると、食べられてしまいますよ。

持っていた人

どうして、こんな話を、

変質者

あなたは、優しそうな人だったから。

持っていた人

、、ありがとうございます。

変質者

ほら。立って。行くのです。

持っていた人

ありがとうございます、

変質者

私のことは、忘れて。また会えたとしても、初めましてをしましょう。

さようなら。

さようなら。

薄れゆく おもかげのなかで 変質者がさけびと、こちらをみつめている。

変質者

今其事実を枚挙し之を世界に布告して其明論を、

待つべし。

待つべし。

待て。

待って。

wait

wait'
attendre'
Warten'
manere'
atendu'
대기'
kall'
wag'
čekaj'
पछ'
چکائ'
…おこえるか　これが世界だ。
まっぺいられるか　それは、まもなく　そこに――

— Epilogue

河の　先で。

持つ人

私／僕は、、、今　海辺を、散歩している。

持つ人の、場所には。

持つ人

これは、、、夢だと思う。僕／私は、海辺の遊歩道を、もう一度、歩きたかった。…あ、ここで言う、もう一度ってのは、なにもあと一回だけできれば満足ってわけじゃない、、、できるなら、生涯かけて、、、何度か、、、。…このニュアンス、分かるよね？　私／僕はおんなじ　言葉、を使ってる筈だから。

揺れが、ある。あるいは。

持つ人

私／僕は、、、孤独じゃない、ほうがよかった、わけで、その理想的で幻想的な、黄昏のビーチも、独りよりは――

揺れ、止まり、あるいは、回転のように。存在が大きく、背中、深海の渦は止めどなく、あらゆる時空間 歪み あなたの、背中。大きく、

持つ人

ねえ、あなたも同じでしょ？ 外の空気、薄皮一枚めくってでも、吸い込みた
いはず、で。孤独じゃないほうが、いい、はず、で。——みなものを、覚え
てる？ あの、産毛が産後帰りのように 寄せては返していた、うるさいくら
いの波打ち際に、あるいは全く全て黒塗りの空間に、あの頃、私／僕は、立っ
ていて。それから、少し離れた位置に
あなたがい
た。
なんて言葉を、かけただろうか。ちゃんと伝わった？ もう 覚えて、ない
な。

渦は、やがて、大きくなり、なにもかも飲み込んでいく。

持つ人

そこをね、もう一度、、、ただ——あなたと、歩きたかったよ。
だってさ。あの時が1番、私／僕／たち、、、近かった から。

大きな渦は、深すぎる暗闇である。それをしつてなお、動く／かさねばならないのだろ
う。義務は衝突を生み、衝突は誕生を促す。あの遠くにみえていた、波打ち際、海辺の
砂粒は、私／たちの取りこぼし、みすてられた命だった。

持つ人は、縁／淵からつつぷりと、出て行った。

断層は、もはや過去のものとなる。

ただその空間だけが、時間を物語っている。